COMPUTER SEWING MACHINE

THE MISIN

ザ ミシン
HZL-7900

取扱説明書

⚠注意
安全にご使用していただくため、
ご使用前に必ずこの取扱説明書を
お読みください。また、いつでも
ご覧になれますように保管してください。

お買い上げまことにありがとうございます。
このコンピュータミシンの数々の特長を
正しく安全にご使用していただくために
まずこの「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書、ジューキサービス網一覧表と
ともに、必ずケースの中に入れて保管してください。

このミシンはマイクロコンピューター及び半導体電子部品を採用した精密な電子回路を内蔵しておりますので、次の事項を守ってご使用ください。

- ご使用になる部屋の温度が著しく低い場合、回転が低下する等正常に作動しないことがありますので、5℃〜40℃の範囲でお使いください。
- このミシンに内蔵のモーターは、電子制御により、低速から高速回転まで、自在にコントロールが可能なモーターを採用しております。特に低速ぬいを長時間行った場合、モーターの以上発熱を防ぐため、自動的に安全装置が働きモーターの電源回路が切れるしくみになっています。
  ご使用中万一、モーターが止まった場合、電源スイッチを切り、しばらく（約20分間）お待ちいただければ安全装置が復帰し正常にご使用できます。

―― ご不明な点がありましたらお買い上げ店、または弊社サービスセンターにご一報ください。――

安全にご使用していただくために

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY
仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

この表示は
禁止マークです。

⚠警告 **このマークの表示は感電、火災の原因となりますから、特にご注意ください。**

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。

●ミシンのそばを離れるとき。
●ミシンをご使用になったあと。
●ミシンのご使用中に停電したとき。

⚠注意 **このマークの表示は感電、火災、けがの原因となりますから、特にご注意ください。**

1. コントローラーの上に物をのせないでください。

2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。

3. ミシンを操作するときはかま部などカバー類を閉じてください。

4. ミシンの縫製中は針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。

5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。

6. 針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押したりしないでください。

7. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全にご注意ください。

8. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。

●針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
●下糸、上糸をセットするとき。
●取扱説明書に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。

9. 落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
10. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは速やかに使用を停止し、最寄りの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。

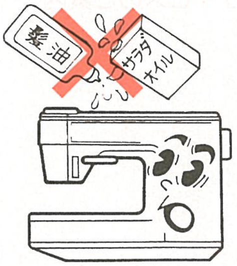
●正常に作動しないとき。
●落下などにより破損したとき。
●水に濡れたとき。
●電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
●異常な臭い、音がするとき。

11. ミシン油について

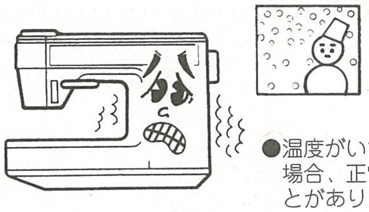
●炎症、かぶれを防ぐため、目や身体に油が付着したときは直ちに洗浄してください。
●下痢、嘔吐を防ぐため、誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
●子供の手の届かないところに置いてください。
●油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。

その他のご注意

ミシン油以外の油は使わないでください。

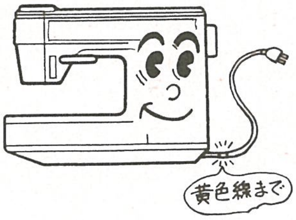


5℃～40℃の範囲でお使いください。



●温度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。

コードは黄色線以上引き出さないでください。



シンナーなどの溶剤ではふかないでください。

●柔らかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

もくじ

使用前の準備　ページ

安全にご使用していただくために ……………1
ケースのとりはずし方・付属品 ……………3
各部の名称 ……………………………………4

使い方の基本　ページ

フリーアームのセット …………………………4
主なはたらき …………………………………5
下糸の準備 …………………………………6,7
上糸のかけ方 ………………………………8,9
●針自動糸通し
●下糸の引きあげ方
押えのとりかえ方 ……………………………10
押えと各模様の関係 …………………………10
ぬい目の長さについて ………………………11
ぬい目の長さ調節方法 ………………………11
自動糸調子・糸調子について ………………12
しんせつモニターについて …………………13
布地に合った糸と針の選び方 ………………14
針について ……………………………………14
いろいろなぬい方のガイド …………………15

基本的なぬい方　ページ

直線ぬい ………………………………16〜18
●返しぬい ……………………………………17
●ぬい方向を変えるとき ……………………18
●厚地のぬい始めのぬい方 …………………18
●ぬい代の重なっている部分のぬい方 ……18
●筒ぬい（フリーアーム）…………………18
●いせ込み・ギャザーの寄せ方 ……………19
●自動糸切りの使い方 ………………………19
●糸切りみぞの使い方 ………………………19
ジグザグぬい …………………………………20

実用ぬいと応用ぬいのいろいろ　ページ

裁ち目かがり（縁かがり）…………………21
自動ボタン穴かがり …………………22,23
●芯入りボタン穴かがり ……………………24
●手動ボタン穴かがり ………………………25
ファスナーつけ ………………………26〜29
●脇あきファスナーつけ …………………26,27
●つき合わせファスナーつけ ………………28
●コンシールファスナーつけ ………………29
伸縮強化ぬい（ストレッチステッチ）………30
三点ジグザグぬい ……………………………31
ブラインドステッチ（まつりぬい）……32,33
スカラップ ……………………………………
パッチワーク …………………………………35
アップリケ ……………………………………36
キルティング …………………………………37
ピンタック ……………………………………38
上送り押え ……………………………………39
キルトアタッチメント ………………………40
コントローラー ………………………………41

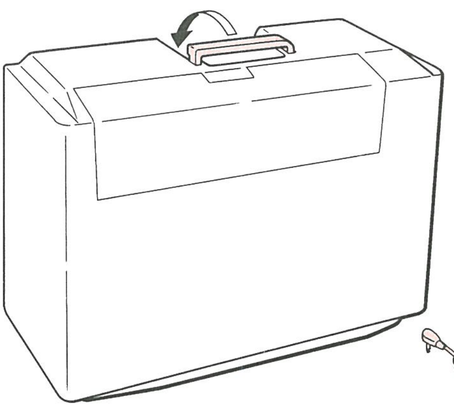
別売品付属品

三つ巻きぬい …………………………………42
ひもつけ（コーディング）…………………43

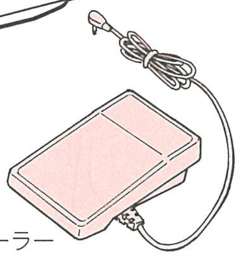
ミシンの調子が悪いとき　ページ

ミシンの手入れ ………………………………44
ボビンケースの調整方法 ……………………44
サービスをお申しつけになる前に ……45〜47
仕様表 …………………………………………47
修理サービスのご案内 ………………………

●ケースのとりはずし方

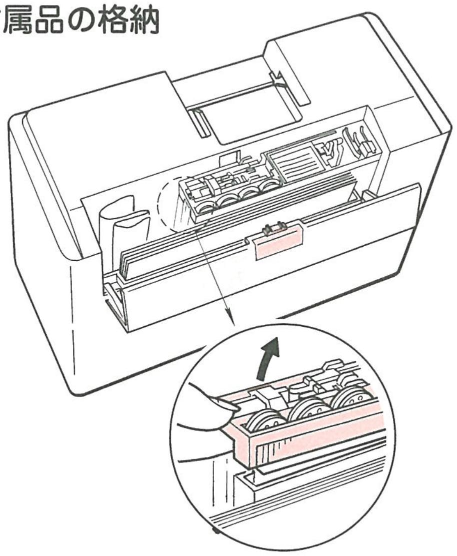


ハンドルをたおしてから、
ケースを持ち上げます。



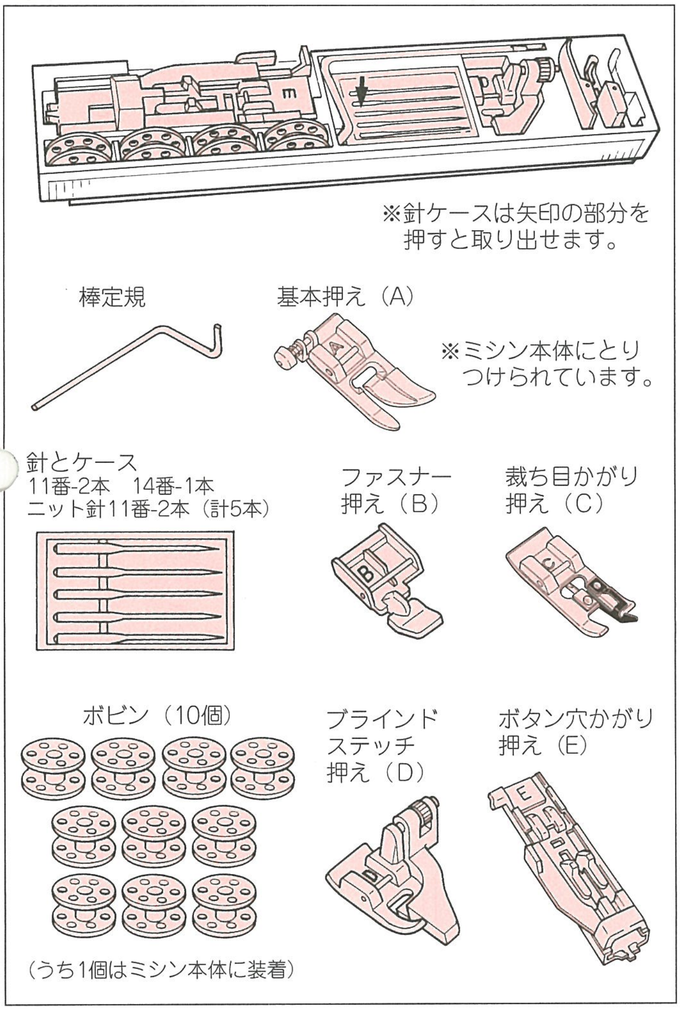
コントローラー

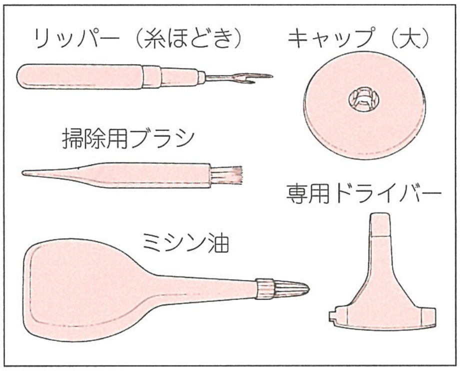
●付属品の格納

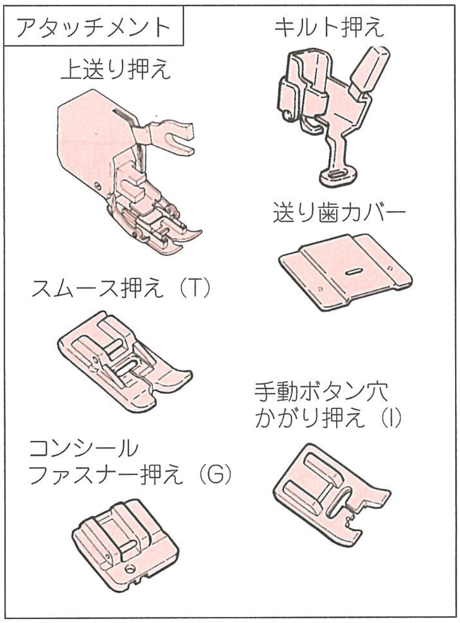


付属品箱のとり出し方
（付属品箱の下に小物が入ります）

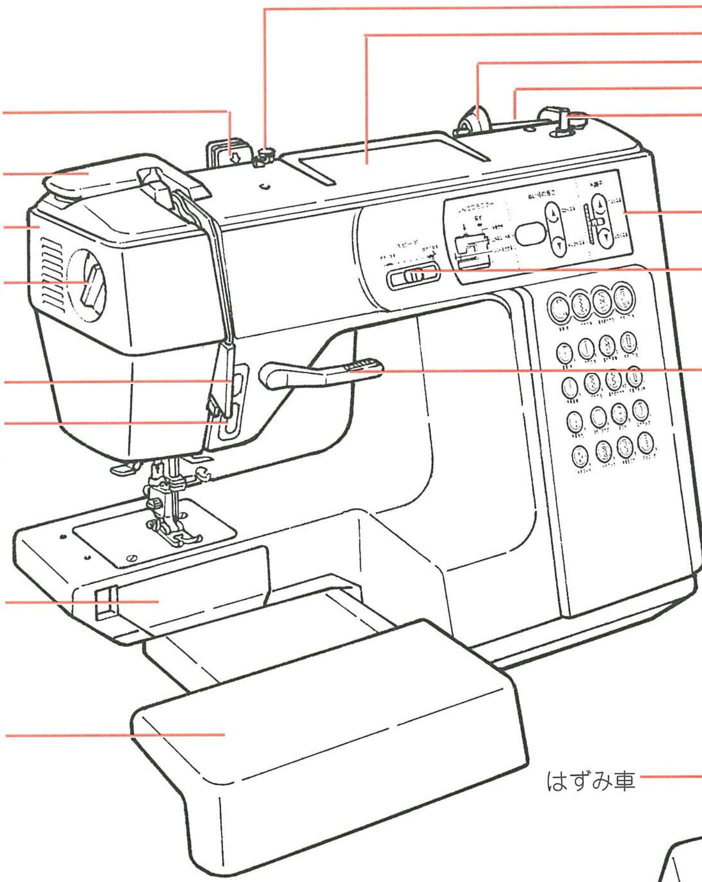
●付属品の内容

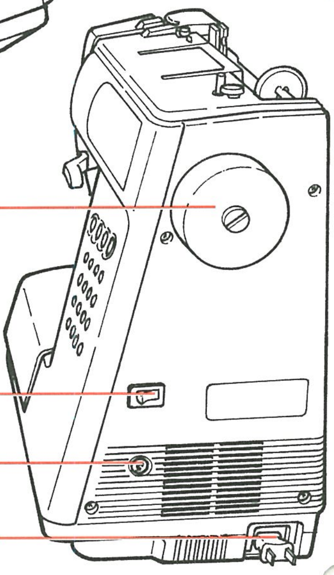


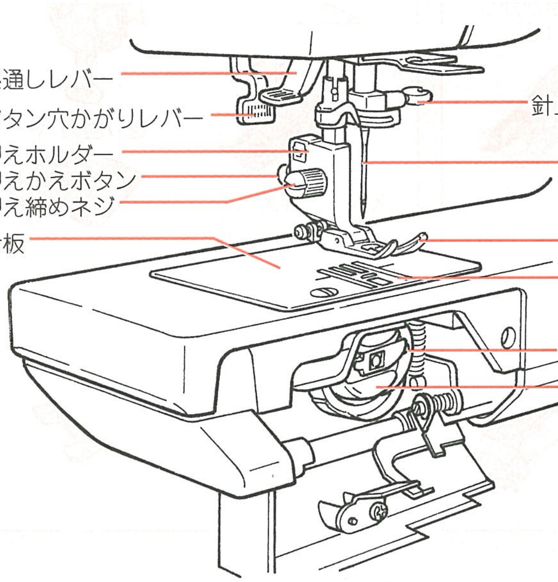




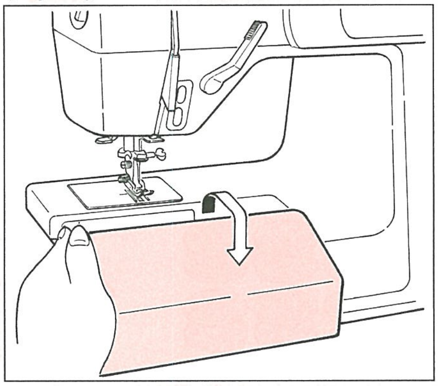
※取扱説明書は必ずケースに入れて保管してください。





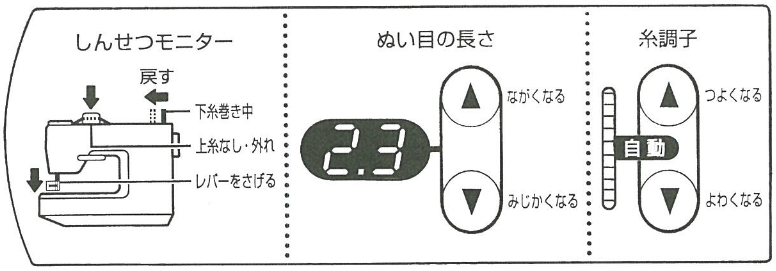


フリーアームのセット



補助ベッドを上にあげて手前に引いてから下におろします。

オペレーションパネル



しんせつモニター
ぬい始めの正しい準備がされていないと、表示ランプが点灯してお知らせします。

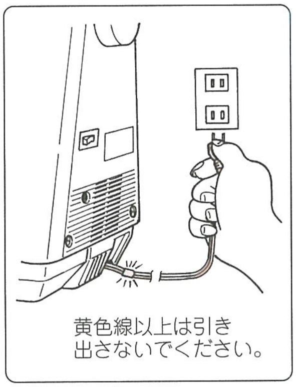
ぬい目の長さキー
(▲) を押すとぬい目が長くなり、(▼) を押すと短くなります。

糸調子キー
(▲) を押すと上糸調子が強くなり、(▼) を押すと弱くなります。

実用ぬい模様選択キー

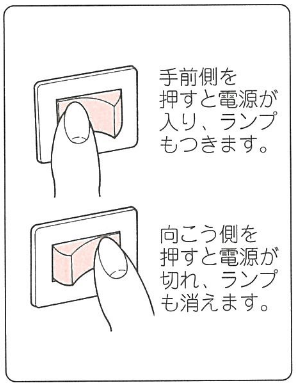
模様の上を押すとランプがつき、模様が選ばれます。

電源・コードリール

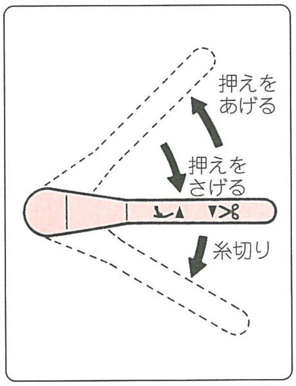


コードを引き出します。
コードを少し引いてゆるめますと巻きこみます。

電源ランプスイッチ

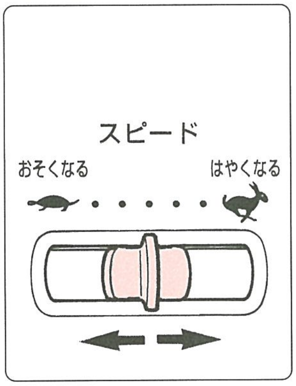


押え上げレバー



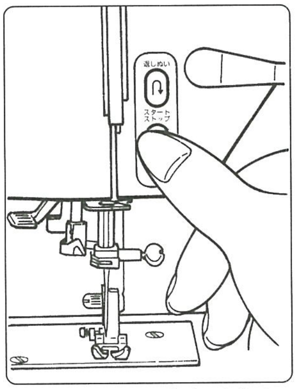
上にあげると押えがあがります。下までさげると糸切りができます。

ぬい速度調節つまみ



ぬいの速さを調節します。

スタート・ストップボタン

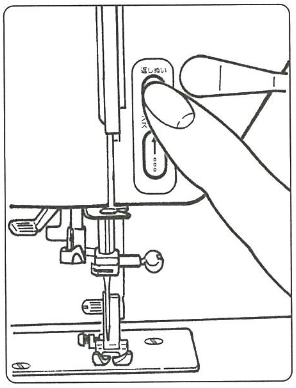


ミシンをスタートさせます。
再度押すとストップします。

ボタンの色がミシンの準備の状態で変わります。

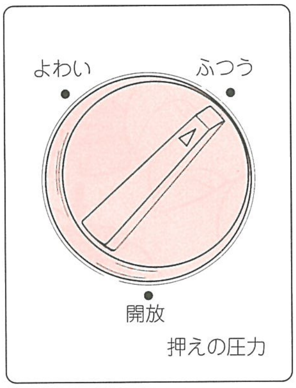
緑色：スタート可能とぬい中のとき
赤色：スタート不可能なとき
橙色：下糸巻き（糸巻軸が右側にある）のとき

返しぬいスイッチ



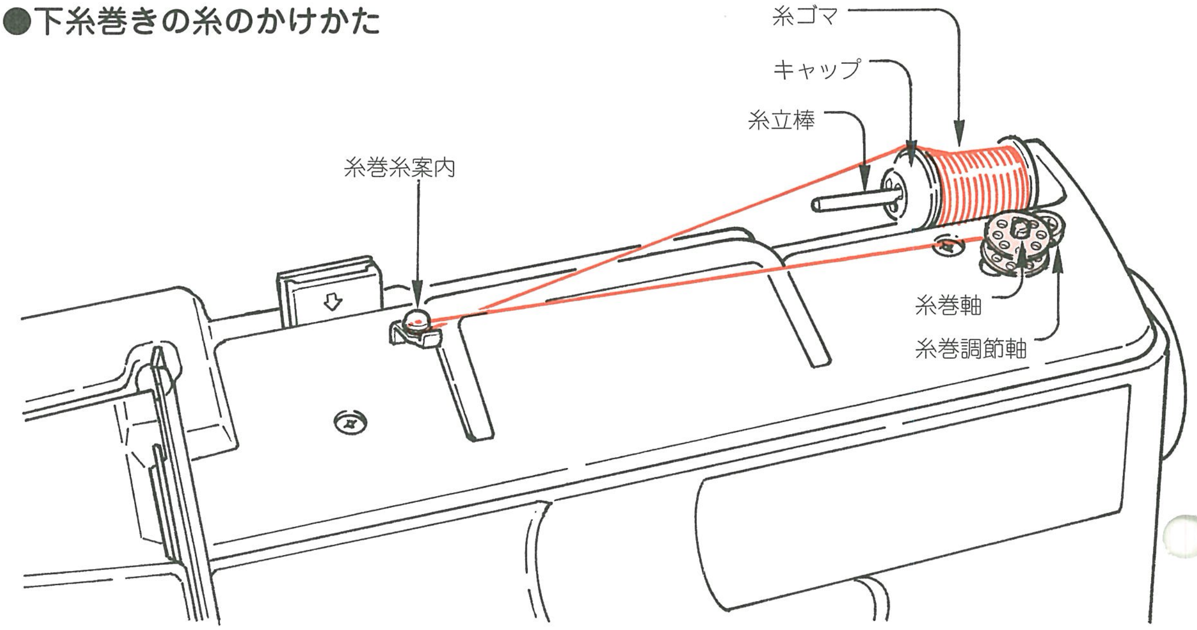
押している間だけ返しぬいができます。はなすと止まります。

押え調節ダイヤル

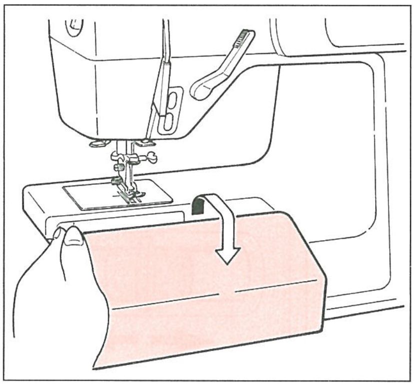


布地の種類や厚さによって押えの圧力を調節します。
通常は「ふつう」でぬいます。

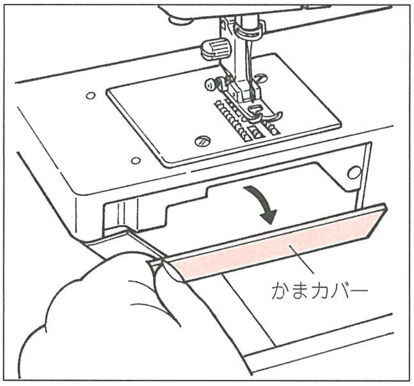
●下糸巻きの糸のかけかた



1 フリーアームにします

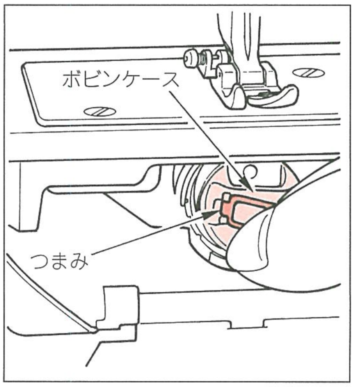


2 かまカバーを開きます



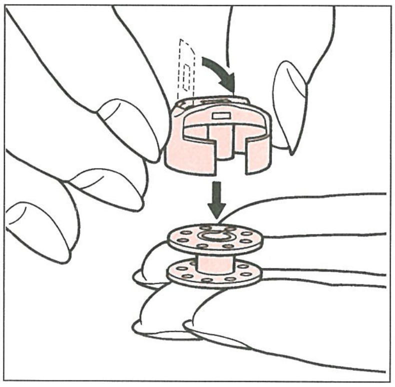
⚠注意 かまカバーを開けるときは電源スイッチを切ってください。

3 ボビンケースをとり出します



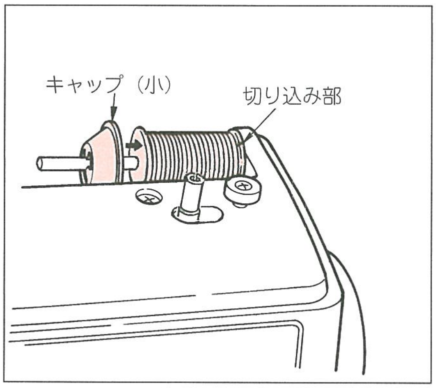
①針があがっていることを確認します。
②つまみを開いてとり出します。

4 ボビンをとり出します



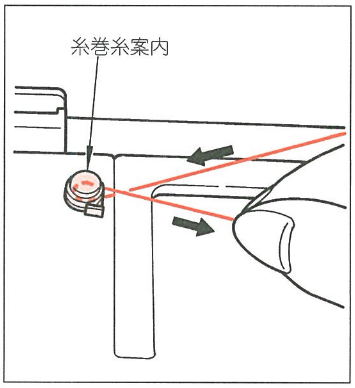
つまみを閉じてボビンをとり出します。

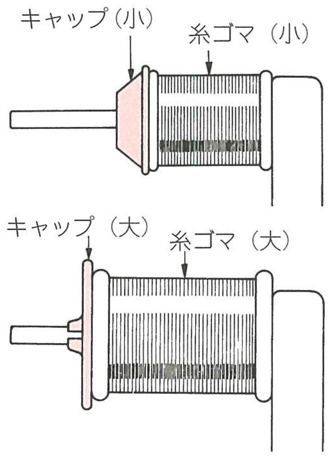
5 糸ゴマをセットします

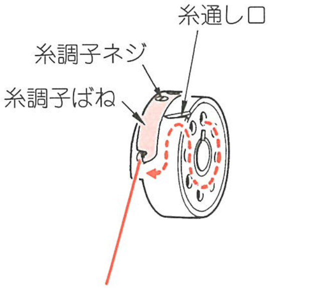


①糸ゴマの切り込み部を右側にして入れます。
②キャップで糸ゴマが動かないように押えます。
③キャップの大、小は次ページの説明通り正しくとりつけます。

6 糸巻糸案内にかけます



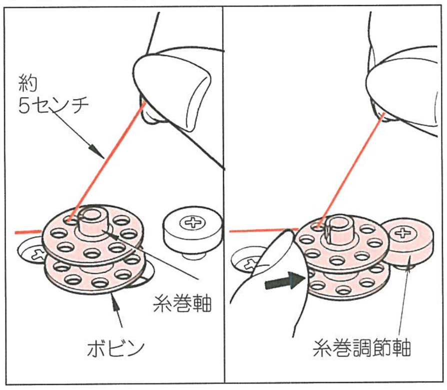




※同梱されているボビンケースは正しく調整されていますので、糸調子ネジにはさわらないでください。

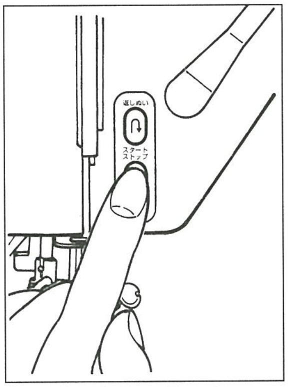
糸ゴマの外周に応じてキャップの（大）（小）を選んでとりつけます。

7 ボビンを糸巻軸にセットします



ボビンを糸巻調節軸へ押しつけます。

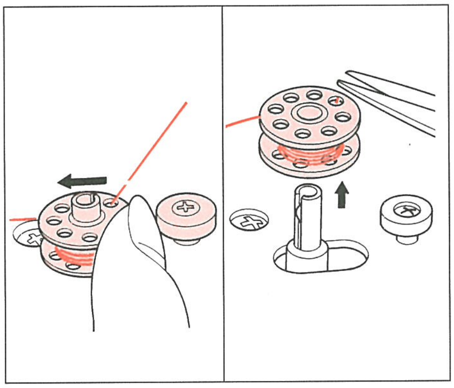
8 スタート・ストップスイッチを押します



巻き終ったらスタート・ストップスイッチで止めます。
※糸巻きスピードの調節はぬい速度調節レバーで行います。

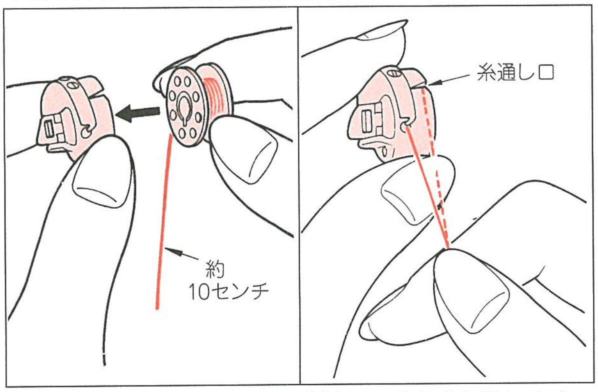
9 ボビンを左側へ戻します

（糸巻軸が右側に寄せられたままになっていると、はずみ車は手で回りません。）



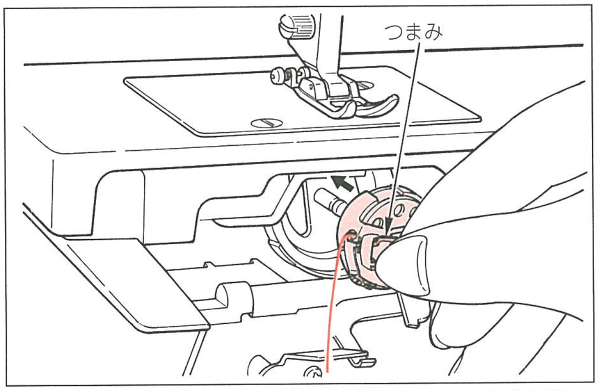
余分な糸を切りボビンをとり出します。

10 ボビンケースに入れます



糸通し口から糸を通します。

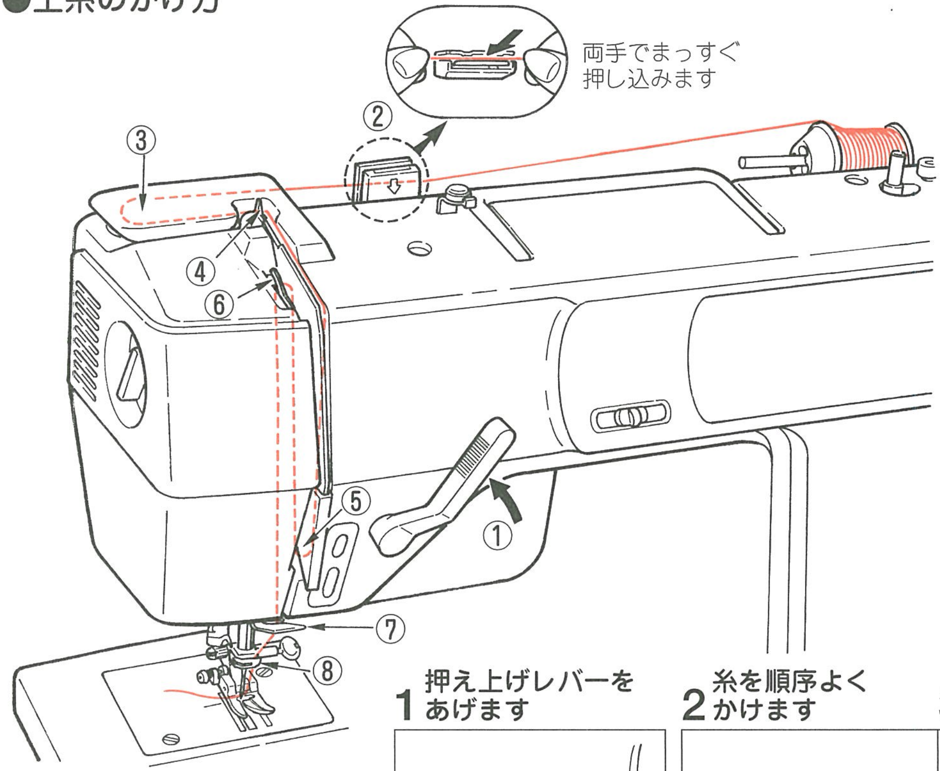
11 ミシンにセットします



①つまみをいっぱいに開いて、かまにしっかりと差し込みます。
②ボビンケースのつまみをきちんと閉じます。

⚠注意 下糸をセットするときは電源スイッチを切ってください。

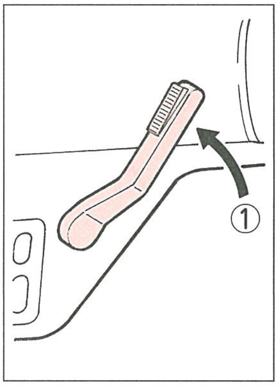
●上糸のかけ方



⚠注意

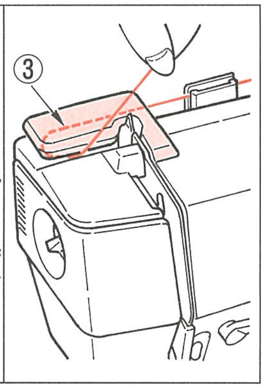
糸かけ、糸通しのときは
電源スイッチを切ってください。

1 押え上げレバーをあげます



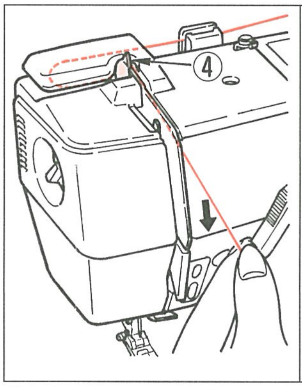
2 糸を順序よくかけます

3



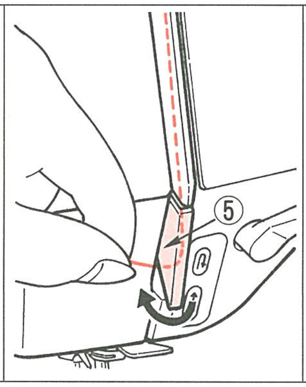
糸検知糸案内の溝へ糸をかけます。この部分から糸が外れると、ミシンは停止します。

4



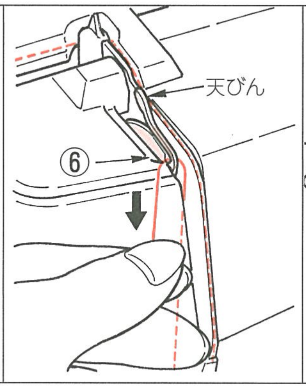
④から下へおろします。

5



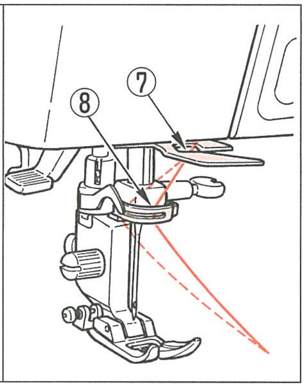
⑤へかけて上にもって行きます。

6



はずみ車をまわして天びんを最上部にし、糸をかけます。

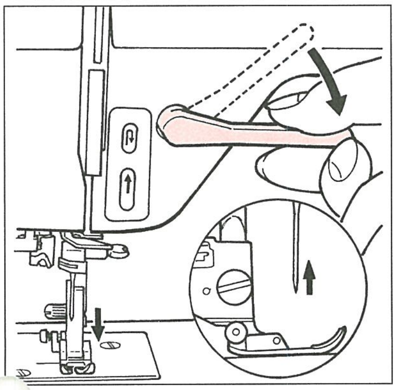
7



⑧には左側からかけます。

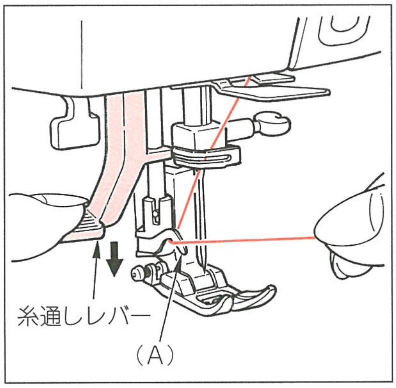
針自動糸通し

8 押え上げレバーをさげます



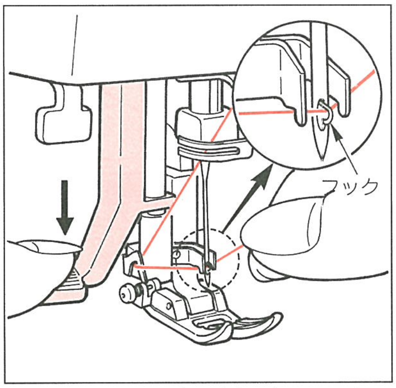
針は一番上にあげます。

9 糸通しレバーをさげます



糸通しレバーを途中（重くなる直前）までさげて（A）に糸をかけます。

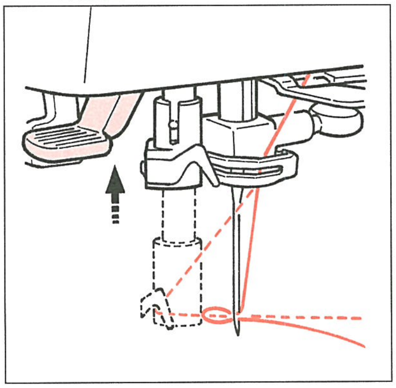
10 フックにかけます



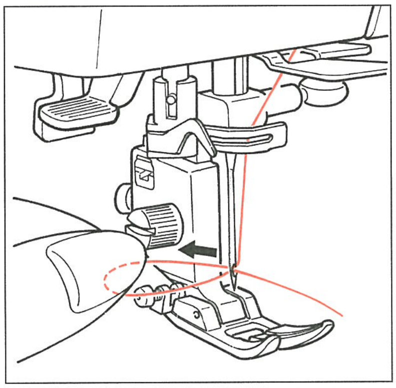
さらに糸通しレバーをさげてフックに糸をかけます。

●フックが糸をひっかけて針穴に通します。

11 糸通しレバーをあげます



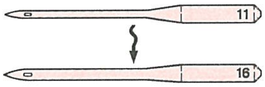
12 糸を引き出します



通した糸を針穴から10センチくらい引き出します。

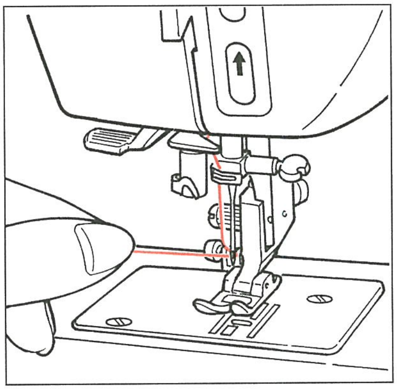
ご注意

1. ミシンが動いているときは糸通しレバーをさげないでください。
2. 針自動糸通しは11番、14番、16番の針に使用できます。

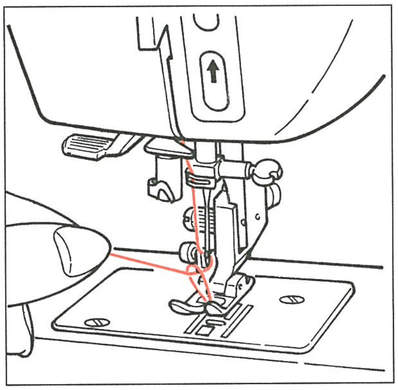


下糸の引きあげ方

13 上糸を軽くもちます

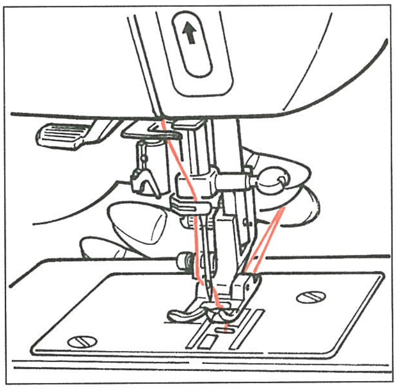


14 はずみ車を手前にまわします



針が上下して、下糸を引き出します。

15 上·下糸を10センチ出します

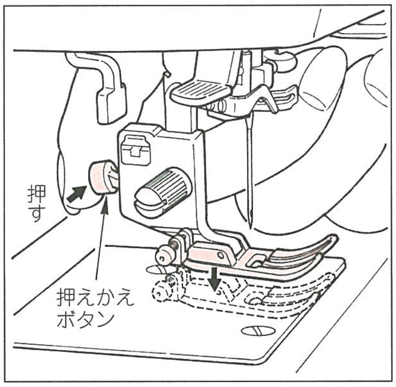


上·下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

押えのとりかえ方

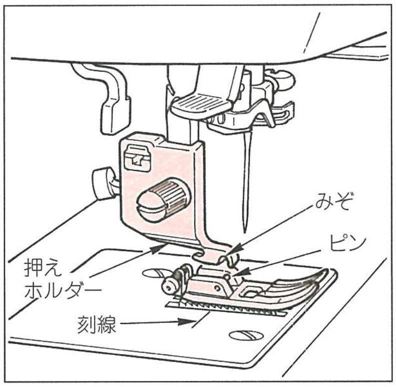
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをはずします

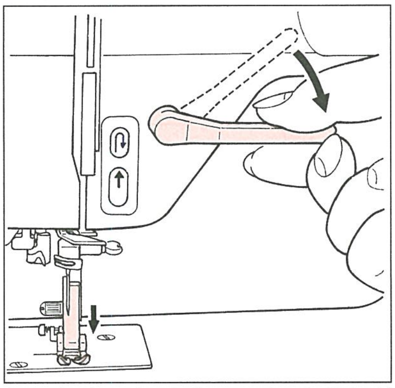


①押え上げレバーを上にあげます。
②押えかえボタンを矢印の方向に押します。

2 押えのピンを刻線に合わせます



3 押え上げレバーを水平にします

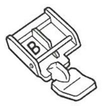


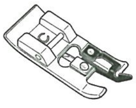
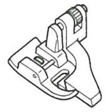
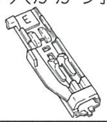
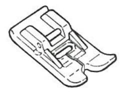
押え上げレバーを水平にすると押えがセットされます。

押えと各模様の関係

⚠注意 押えをまちがえますと針がぶつかり、折れたり、曲ったりしますのでご注意ください。

※押え記号は、各模様ボタン右下に表示されています。

押え	基本押え											ファスナー押え 
記号	A											B
模様												必ず左基線の直線ぬいを使用
主な用途	左基線	中基線	伸縮直線ぬい	伸縮強化ぬい	小	中	大	三点ジグザグ 裁ち目かがり	模様ぬい パッチワーク	裁ち目かがり	アップリケ	ファスナーつけ
	ピンタック キルティング 直線ぬい				キルティング アップリケ ジグザグぬい							

押え	裁ち目かがり押え 		ブラインドステッチ押え 		ボタン穴かがり押え 		スムース押え 	コンシールファスナー押え	手動ボタン穴かがり押え
記号	C		D		E		T	G	I
模様								必ず左基線の直線ぬいを使用	
主な用途	普通地用	厚地用	普通地用	伸縮地用	小	大	すべりにくい生地をぬう場合 スカラップ	コンシール ファスナーつけ	ボタン穴かがり（手動）
	裁ち目かがり（オーバーロック）		ブラインドステッチ（まつりぬい）		ボタン穴かがり				

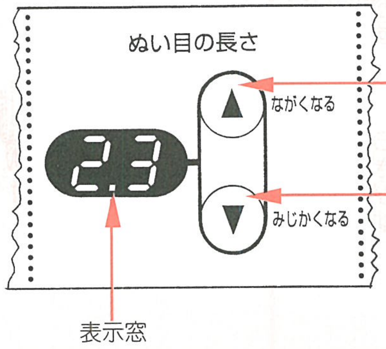
●各模様のぬい目の長さ

●模様を選びますと、自動的に適正なぬい目の長さがセットされます。
●お好みのぬい目の長さにしたいときは、「ぬい目の長さキー」で調節します。

	模様										
ぬい目の長さ	自動	2.3		–	2.6	–	1.0	1.5		1.0	–
ぬい目の長さ	手動の範囲	0.0～4.0		固定	1.6～2.6	固定	0.0～4.0			0.0～2.0	固定

	模様										
ぬい目の長さ	自動	–			2.0		0.5			0.5	3.5
ぬい目の長さ	手動の範囲	固定			0.4～4.0		0.2～1.0			0.0～1.0	1.5～3.5

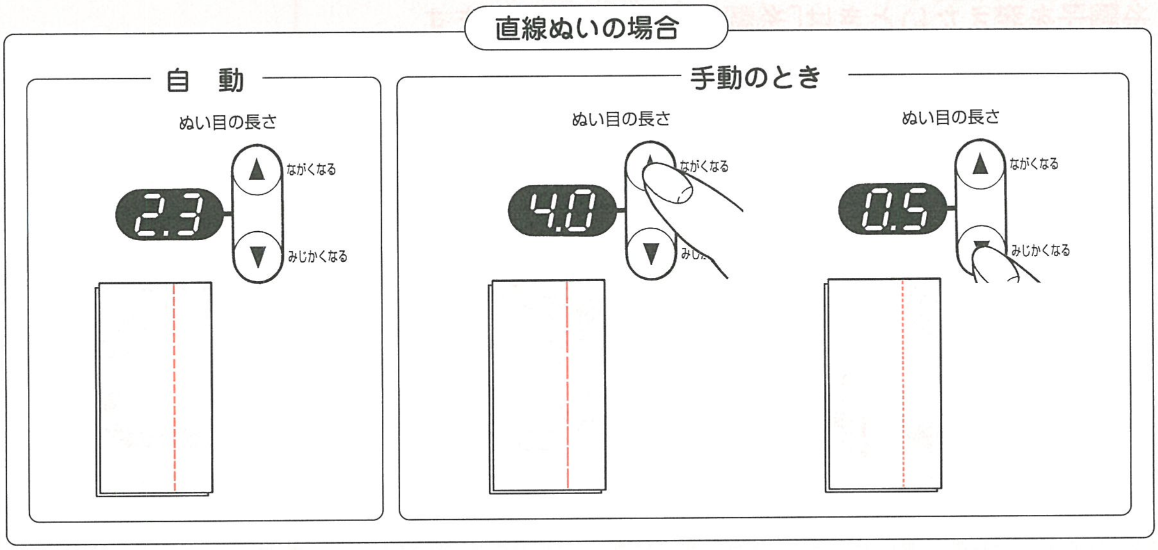
●ぬい目の長さキーの調節方法



▲を押すとぬい目は長く（あらく）なります。

▼を押すとぬい目は短く（こまかく）なります。

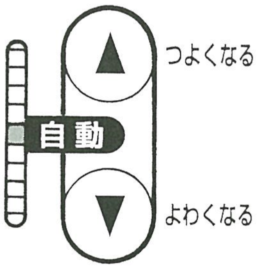
表示窓に表示される数値と実際にぬわれる長さは素材により異なることがあります。
その場合は「ぬい目の長さキー」で調節します。

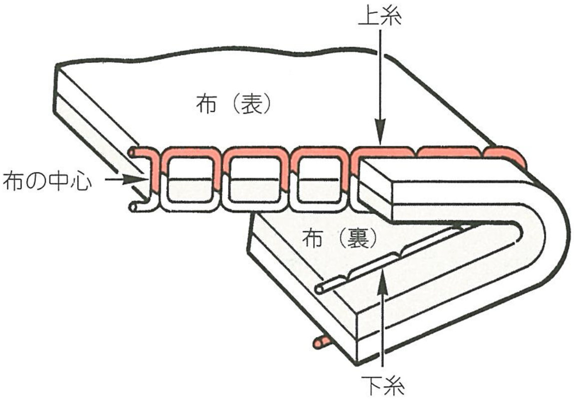


糸調子はコンピューターで自動的に調節されます

上糸と下糸の重なりが布の中心になるよう自動的に調節されます。
※電源を入れたとき、模様を選びなおしたときは糸調子は「自動」にセットされます。

自動糸調子の表示
糸調子が自動のときは緑色のランプが点灯します。

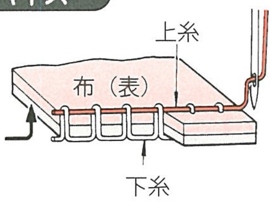




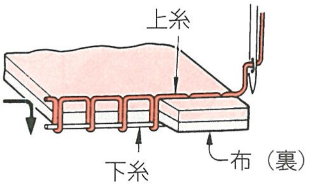
●上糸と下糸のからんでいるところが布の中心にくるようなぬい目が理想的なぬい目です。

アドバイス

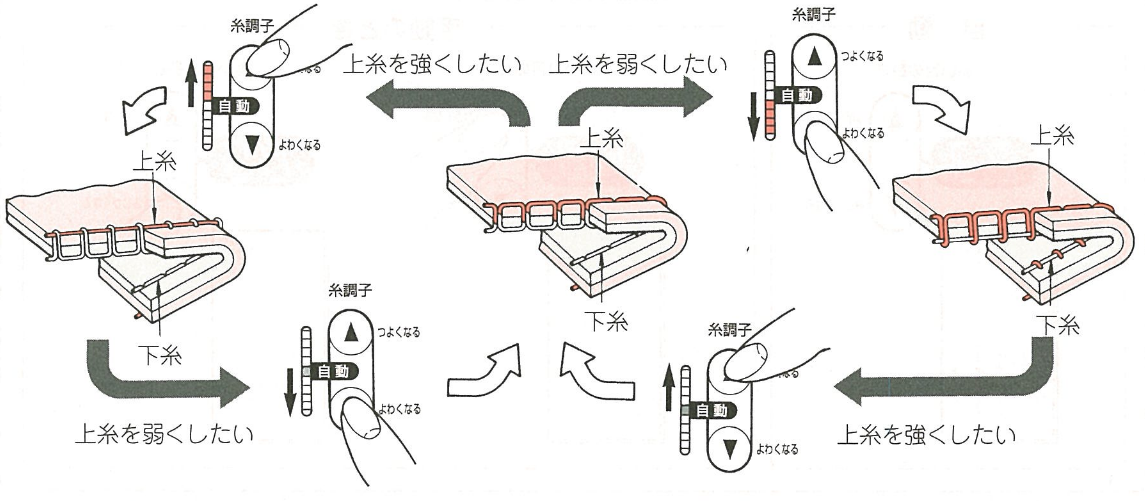
●布の表から見て下糸が見えすぎているときは上糸が強すぎるぬい目です。



●布の裏から見て上糸が見えすぎているときは上糸が弱すぎるぬい目です。



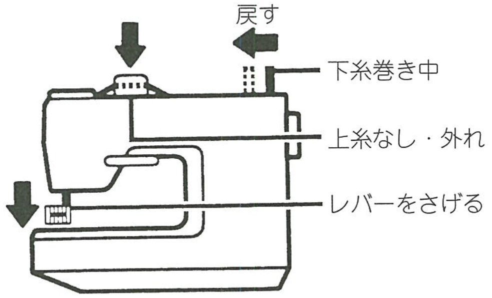
特殊な素材をぬうときなど･･･
糸調子を変えたいときは「糸調子キー」で調節します

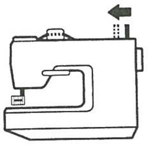
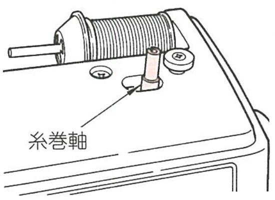
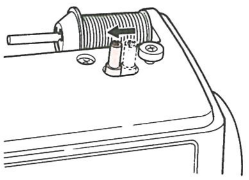
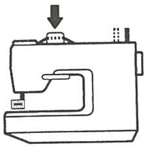
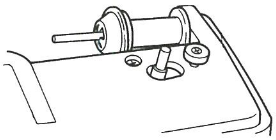
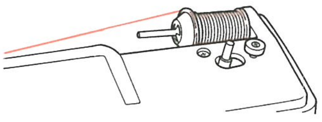
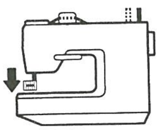
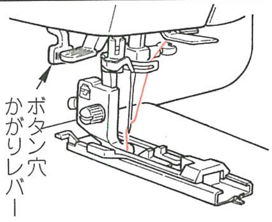
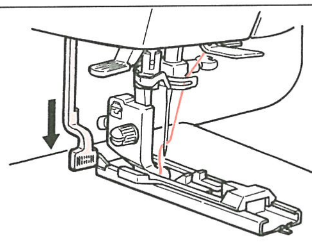


●しんせつモニター

ぬい始めの正しい準備がされていないと
表示ランプが点灯してお知らせします。

しんせつモニター



表示ランプが点灯している			ぬい始める時（下図のようにしますと表示ランプは消えます）
表示ランプ	状　態	スタートボタンを押した時	
	 糸巻軸が右側に行き、糸巻きになっている。	糸巻軸がまわります。 ※このとき、はずみ車は手で回りません。	 ミシンを止めてから糸巻軸を左側へもどします。
	 上糸がなくなっている。	——	 上糸をかけかえてスタートボタンを押します。
	 ボタン穴かがりレバーが下がっていない。	表示ランプが点滅にかわり、ミシンは動きません。	 ボタン穴かがりレバーをさげます。（23ページ参照）

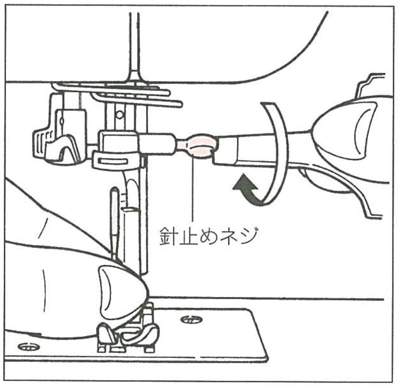
●布地に合った糸と針の選び方

	布　地	ミシン糸		針 HA×1
薄地ぬい	ローン	絹ミシン糸	80～100番	(9番)
	ジョーゼット	化繊・細ミシン糸	90・100番	11番
	トリコット	化繊ミシン糸	80～100番	ニット針 11番
	ウール・化繊布	絹ミシン糸 化繊ミシン糸	80番 80～100番	11番
普通地ぬい	普通木綿・化繊布	綿糸 化繊ミシン糸	50～80番 50～60番	11～14番
	薄手ジャージー	絹ミシン糸 化繊ミシン糸	50番 50～60番	ニット針 11番
	一般ウール・化繊服地			11～14番
厚地ぬい	デニム	綿糸 化繊ミシン糸	30～50番 30～50番	14～16番
	ジャージー	絹ミシン糸 化繊ミシン糸	50番 50～60番	ニット針 11番
	コート地	絹ミシン糸	50番	11～14番

※ニット針（HA×1SP）は目とびを防ぎ伸縮性の布地に適します。

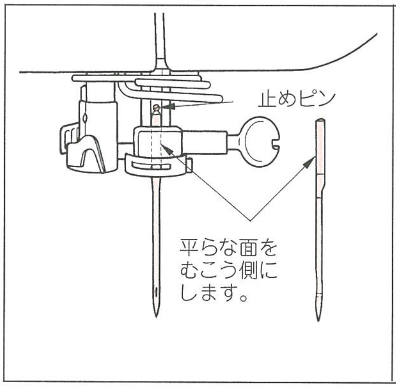
⚠注意 針の交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 針のはずし方

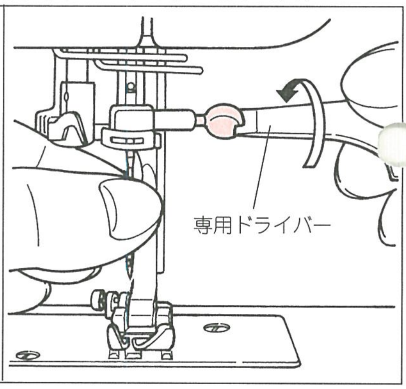


①針棒を最上部にあげます。
②針止めネジをゆるめます。

2 針のとりつけ方 （針が正しい向きでないと、とりつきません）



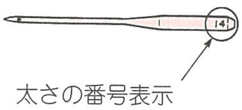
針の平らな面をむこう側にして止めピンに突きあてます。



付属の専用ドライバーで針止めネジをしめます。

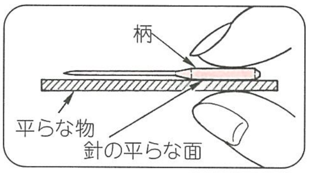
●針の選び方

針をお買い求めの際は、家庭用ミシン針のＨＡ×１またはＨＡ×1SP（ニット針）を指定します。



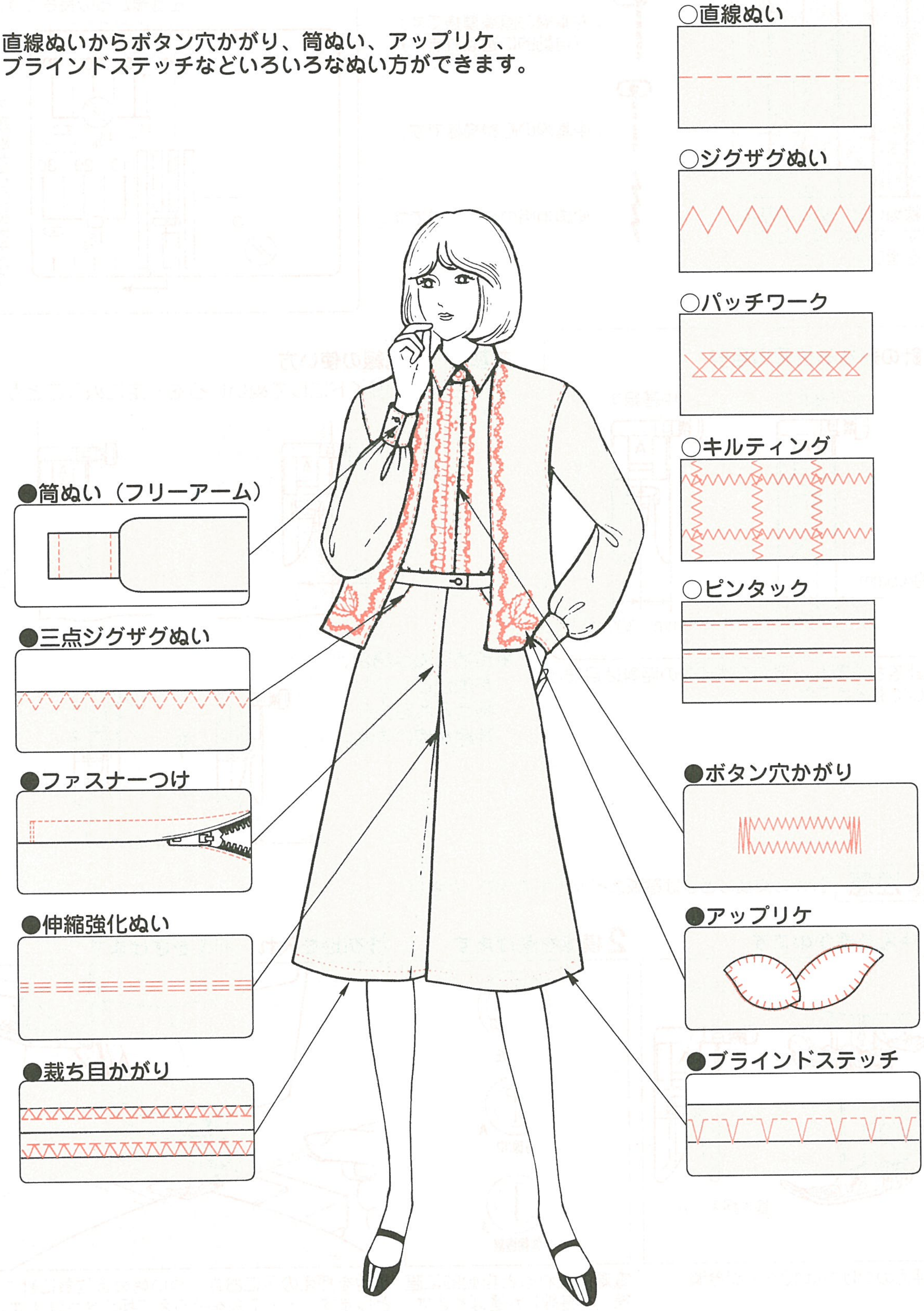
数字が大きくなると針が太くなります。

●針の調べ方

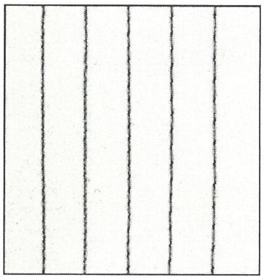


すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。
針先が曲がったり、つぶれているものは使わないでください。

直線ぬいからボタン穴かがり、筒ぬい、アップリケ、
ブラインドステッチなどいろいろなぬい方ができます。



■直線ぬい



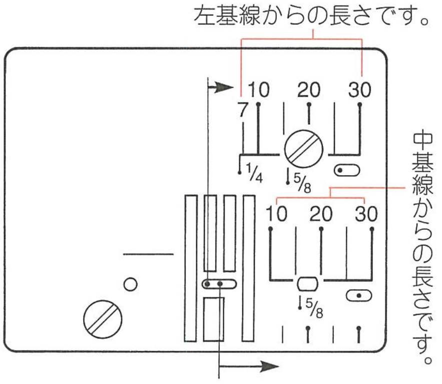
直線ぬいは、ぬいの基本です。布地に適した針と糸を選びましょう。

：左基線の直線模様です。（自動的に選ばれます）

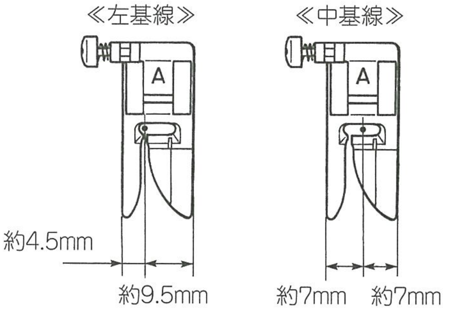
：中基線の直線模様です。

：伸縮地用の直線模様です。

針板の刻線



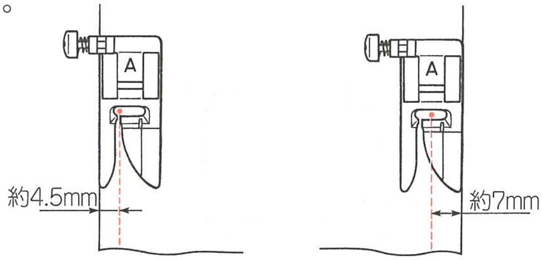
針の落ちる位置の目安



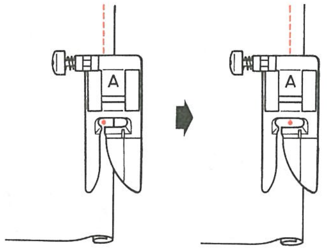
※針落ち位置から押えの端までの距離は目安としてお考え下さい。

左基線・中基線の使い方

＊押えの端をガイドにしてぬいしろを一定にぬうことができます。

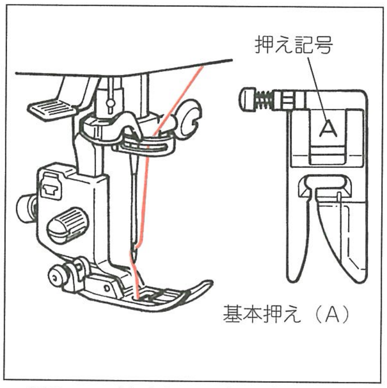


＊布端をぬう場合、布地がしっかり押えられる方の基線を使います。



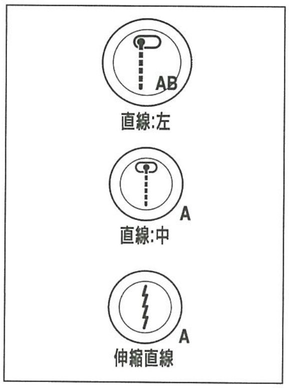
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えを確かめます



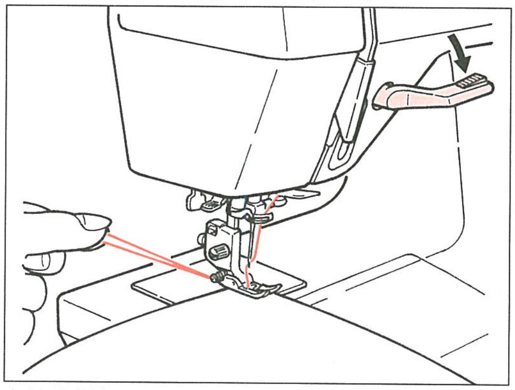
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます



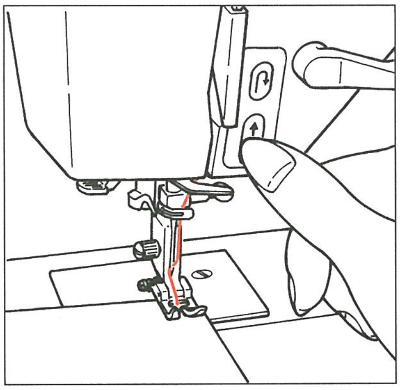
電源を入れると自動的に直線（左基線）が選ばれます。

3 布地を入れ、押えをさげます



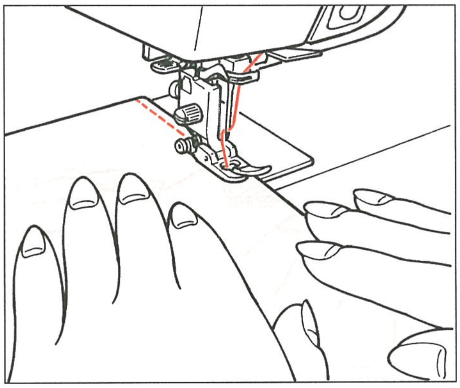
布地を押えの下におき、ぬい始める位置に針をおとします。上・下糸をそろえて押えをさげます。

4 スタートさせます



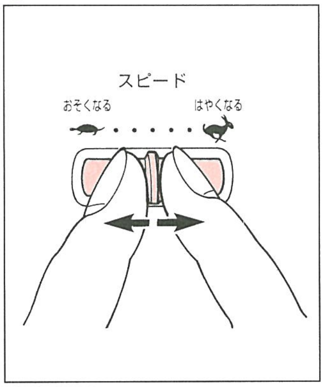
スタート・ストップスイッチを押します。

5 布地に軽く手をそえます



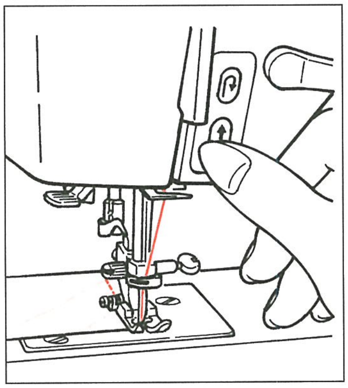
ぬっている間は布地をムリに引っぱらないようにします。

6 ぬい速度を調節します



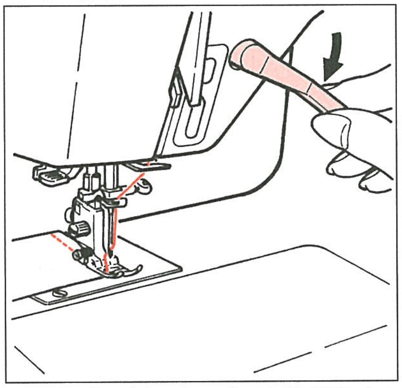
右にするとはやくなります。
左にするとおそくなります。

7 ストップさせます



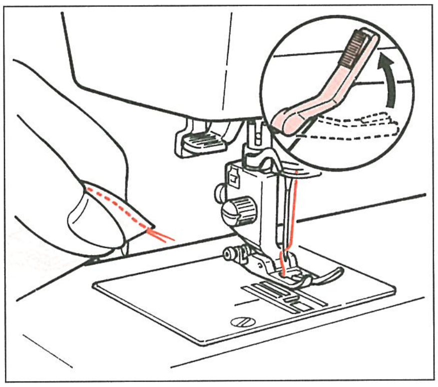
スタート・ストップスイッチを押します。

8 糸を切ります（自動糸切りは19ページ参照）



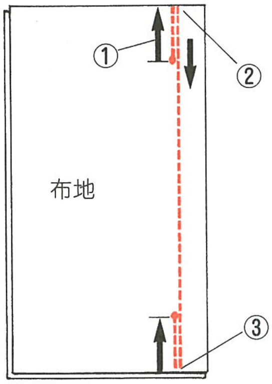
押え上げ・糸切りレバーを針が動くまでいっぱいにさげます。

9 押えをあげて布地をとり出します

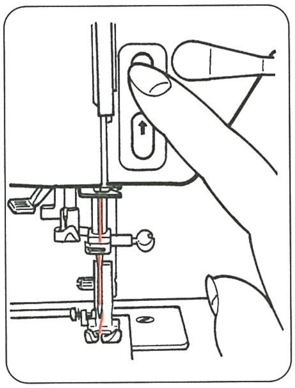


針が完全に止まってから、押え上げ・糸切りレバーを上にあげます。
上・下糸が同時に切れて、布地がとり出せます。

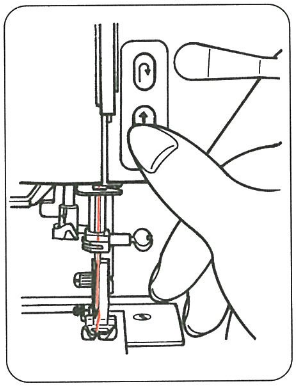
●返しぬい



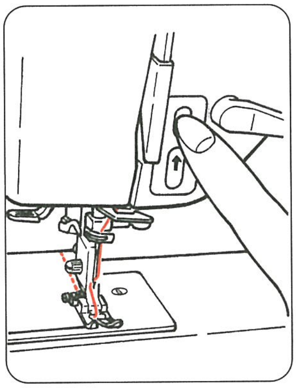
①返しぬいスイッチを押します



②スタート・ストップスイッチを押します

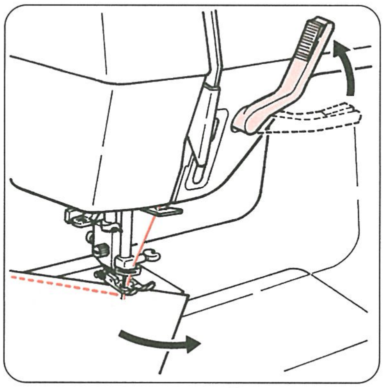


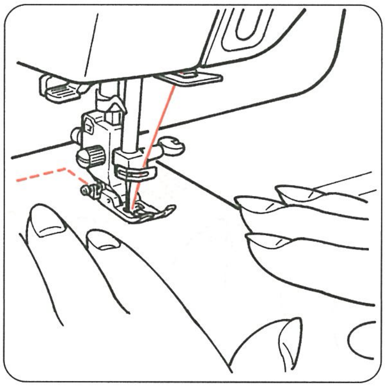
③返しぬいスイッチを押します



※返しぬいスイッチは押している間だけ返しぬいができます。
※返しぬいはゆっくりな速度になっています。
※ジグザグなどの模様ぬいのときは、止めぬいになります。

●ぬい方向を変えるとき

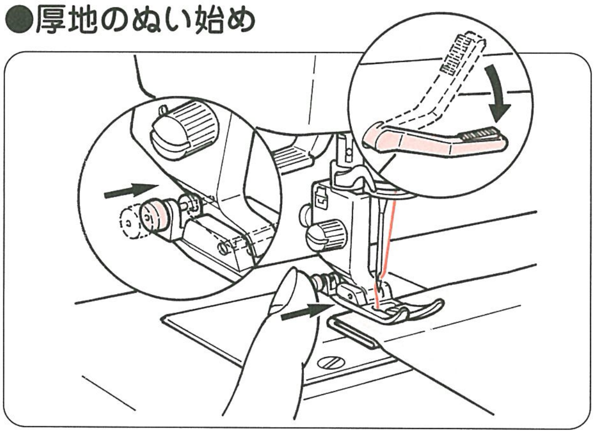




所定の位置でストップさせて押えをあげ、針を軸にして布地を回し、ぬい方向に正しくセットします。

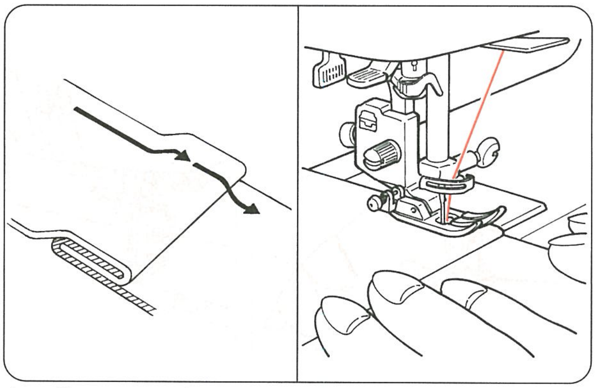
押えをさげて、ぬい始めます。

●厚地のぬい始め



ぬい代が重なった布端よりぬう場合は、押えについているボタン（バネ）を押えホルダーのミゾに押し込みながら布地をはさみ、押えをさげます。押えが布地と平行になり、スムーズにぬうことができます。

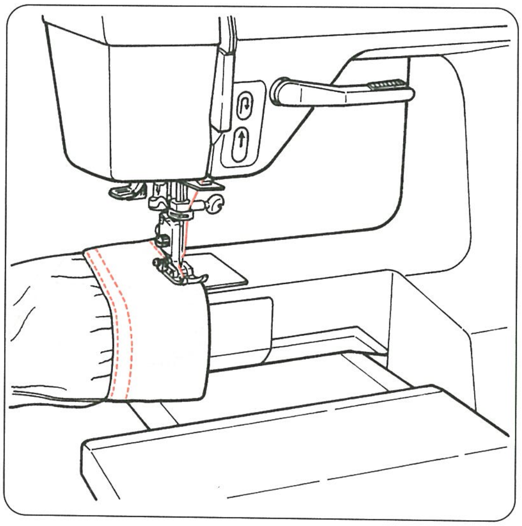
●ぬい代の重なっている部分のぬい方



ぬい代の重なりや、極端に厚みに差ができているところはぬい代を倒した方向にぬいます。

手で少しずつ布の送りを助けながらぬっていきます。

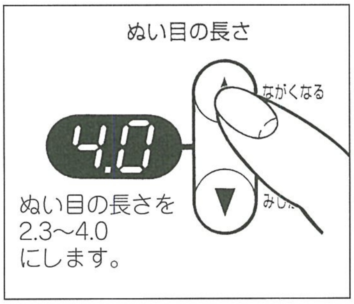
筒ぬい（フリーアーム）

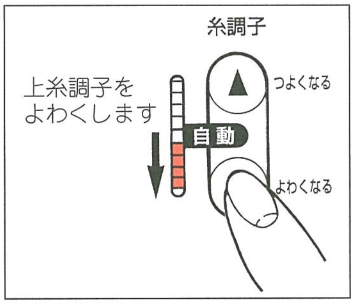


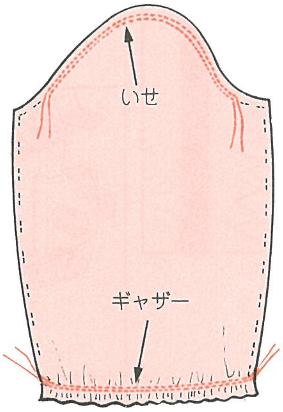
カフスつけ、ノースリーブの見返しつけ、袖口、ズボンの裾など筒型部分をぬうのに大変便利です。

●いせ込みギャザーの寄せ方

袖山やスカートのウエストなどにいせ込みをする場合と袖口やヨークなどにギャザーを入れる場合は、上糸調子をよわくしてぬい、そのあと手で下糸を引いて布地をちぢめます。





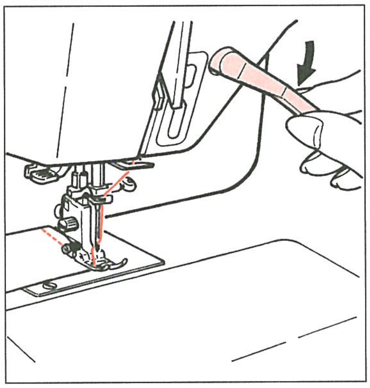


いせ込みギャザーの寄せ方

自動糸切りの使い方

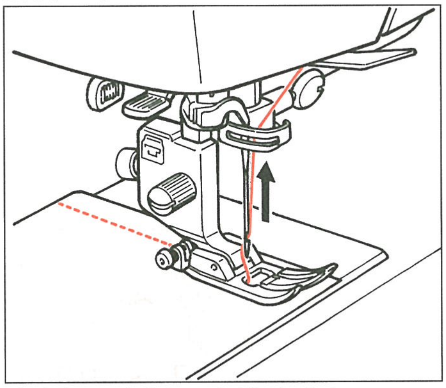
ぬい終ったあと、自動糸切りを使うと便利です。30番以上の太い糸や特殊な糸は糸切りみぞを使って糸を切ってください。

1 糸切りレバーをさげます



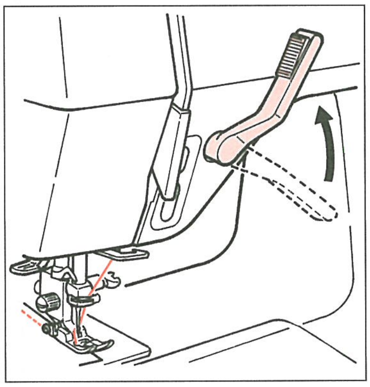
ぬい終ったら、糸切りレバーを下にいっぱいまでさげます。

2 針が動きます



針が動いて上糸と下糸が切れます。針は上で止まります。

3 糸切りレバーをあげます

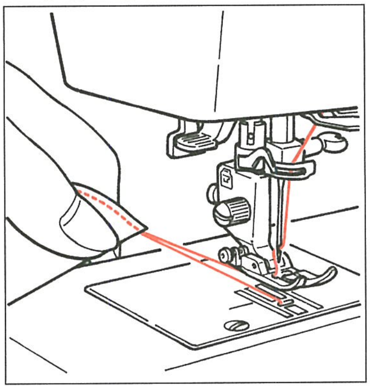


針が完全に止まってから、糸切りレバーを上にあげます。

※自動糸切りをしたとき、下糸が針板上にでなくても続けてぬうことができます。

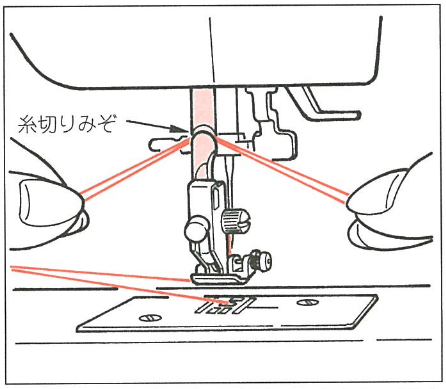
糸切りみぞの使い方（糸を結ぶ方法）

1 布地をとり出します



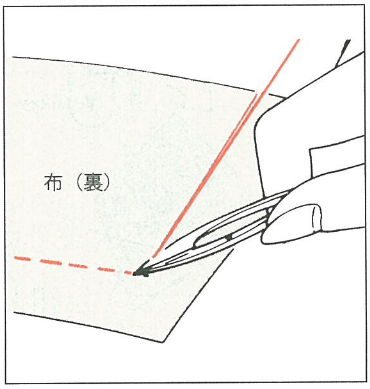
ぬい終ったら、針をあげてから押えをあげて布地を静かに引き出します。

2 糸切りみぞで糸を切ります



上糸と下糸をそろえて10センチくらい引き出し、押えの裏側の糸切りみぞで糸を切ります。

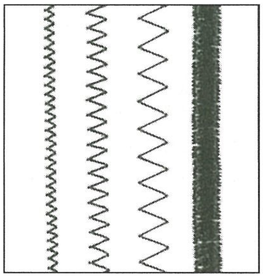
3 布地の裏で糸を結びます



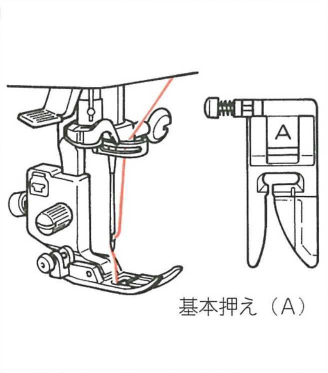
布地の裏に上糸を引き出し、上糸と下糸を結び、結び目のきわで糸を切ります。

⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

■ジグザグぬい

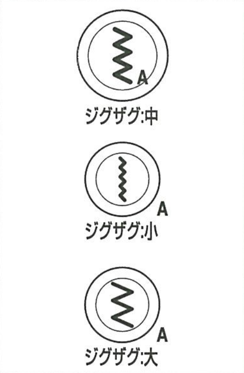


1 押えを確かめます



※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます



3種類のうち、お好みのジグザグ模様を選びます。

3

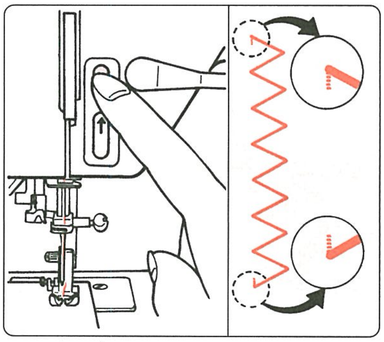
ぬい方は直線ぬいと同じです。
直線ぬい16,17ページを参照ください。

振り幅とぬい目の長さの関係

模様選択キー		ジグザグ:小	ジグザグ:中	ジグザグ:大
振り幅		小（2.0）	中（3.3）	大（5）
ぬい目の長さ	自動	1.0	1.5	1.5
	マニュアル範囲	0.2 ～ 4.0	0.2 ～ 4.0	0.2 ～ 4.0

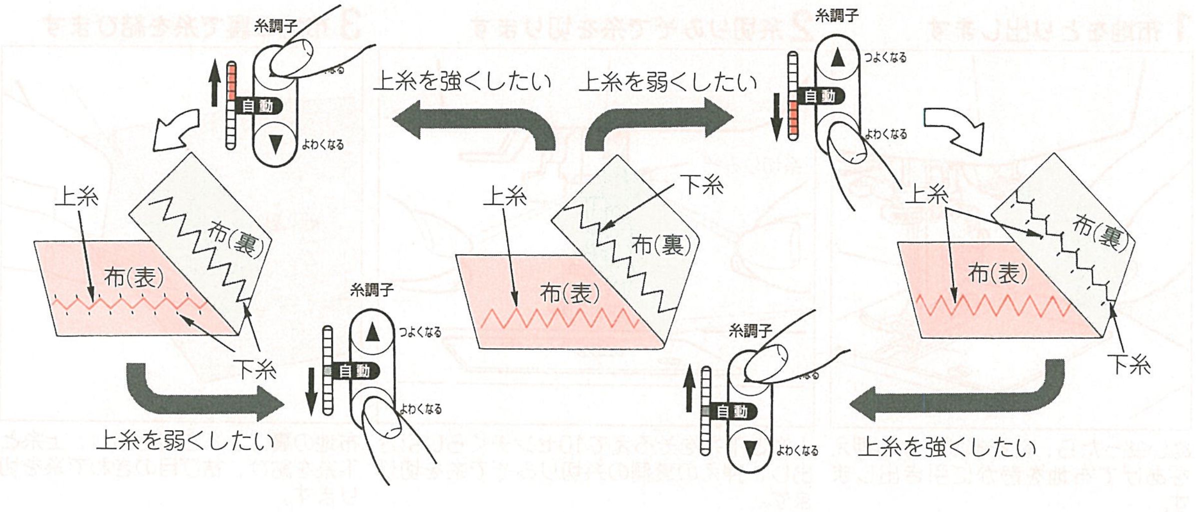
●止めぬい（返しぬい）

ジグザグのぬい始めとぬい終りに止めぬいをすると糸がほつれません。

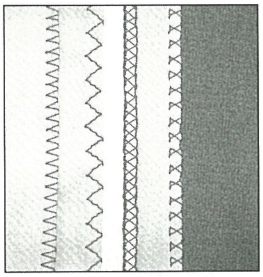


ぬい始めとぬい終りに返しぬいスイッチを押します。

糸調子を変えたいときは「糸調子キー」で調節します



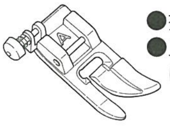
■裁ち目かがり（縁かがり）



布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

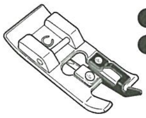
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをかえます



●振り幅中
●三点ジグザグぬいは必ず基本押え（A）を使います。

基本押え（A）

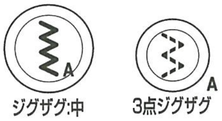


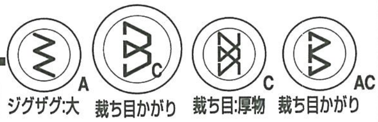
●振り幅大
●裁ち目かがり

裁ち目かがり押え（C）

※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます

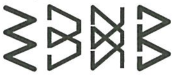




6 種類のうち、お好みの模様を選びます。

ご注意：

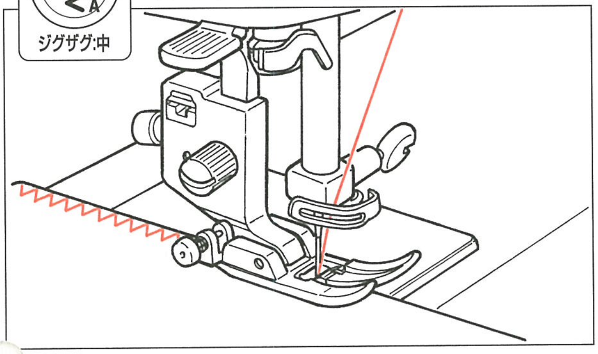
●裁ち目かがり押え（C）は

裁ち目かがり模様 

のみにご使用ください。
その他の模様は押えに針がぶつかります。

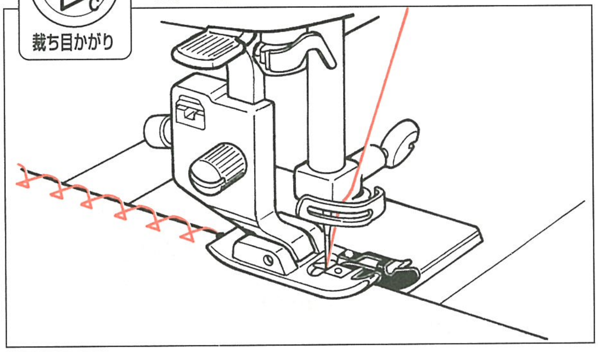
●薄地をぬう場合、一般的な布地では、針9～11番、糸80～100番を使うときれいにぬい上がります。

ジグザグぬいの裁ち目かがり



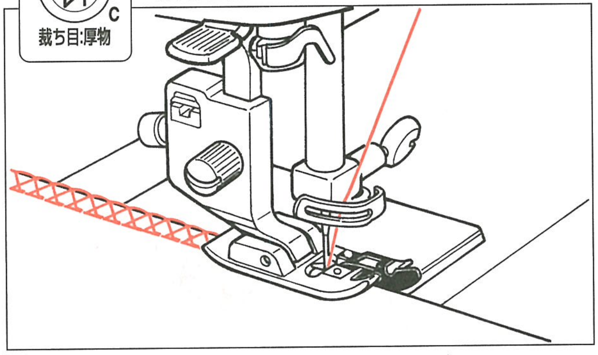
薄地の布で布端が丸まりやすい場合に使います。

裁ち目かがり



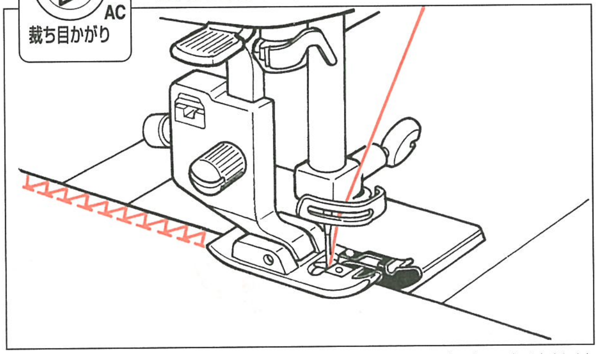
布地の裁ち目のほつれ止めとして広く使います。
布端に針が落ちるようにぬいます。

裁ち目かがり



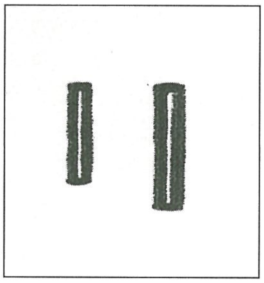
普通地から厚地のほつれ止めに適しています。
布端を押えのガイドにあて、針が布地の端すれすれに落ちるように布をセットします。

裁ち目かがり



かがりぬいと地ぬいが同時にでき、ほつれやすい布や伸縮性のある布でぬい代をわらなくてよいものの、ぬい合わせに適します。

■自動ボタン穴かがり



手ぬいでかがるとたいへん手間のかかるボタン穴かがりが自動的にできます。

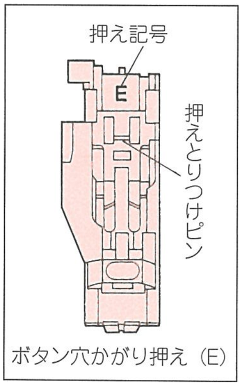
●ニット地（伸縮素材）は布地に芯地、または不織布をはり押え調節ダイヤルを「よわい」にしてぬいます。
●必ずためしぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。

Yシャツ、ブラウスなどの小さいボタンに適します。

上衣などの大きいボタンに適します。

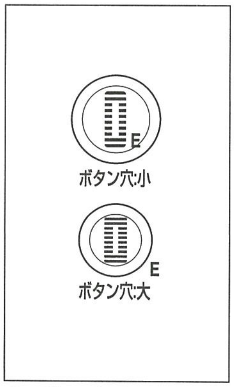
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをかえます



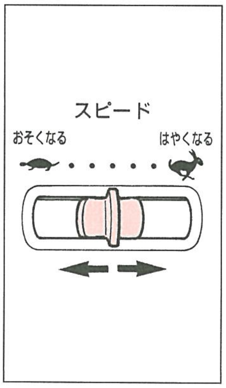
押え記号のある方を向こう側にしてとりつけます。
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます

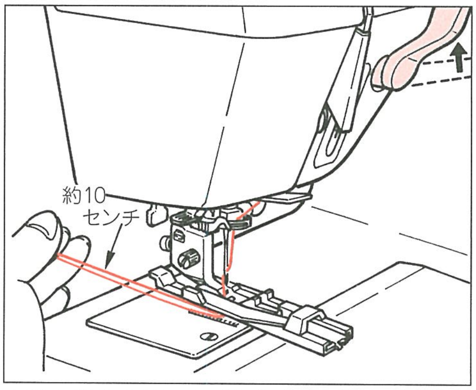


２種類のうち、目的に合ったボタン穴かがりを選びます。

3 ぬい速度を決めます

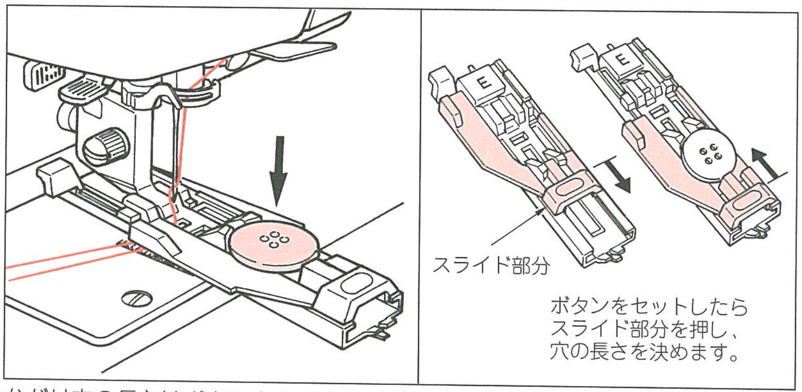


4 糸を横に出します



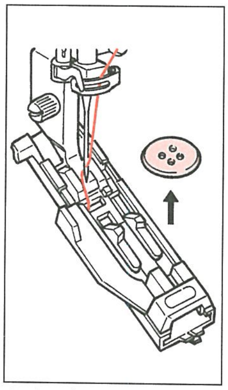
上糸を押えの下へくぐらせます。

5 ボタンをセットします



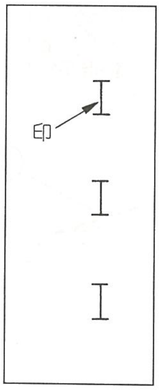
かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決まります。
（押えにボタンがのらないときは、**ボタンの直径＋ボタンの厚み**をかがり穴の目安にしてください。）

6 ボタンをはずします



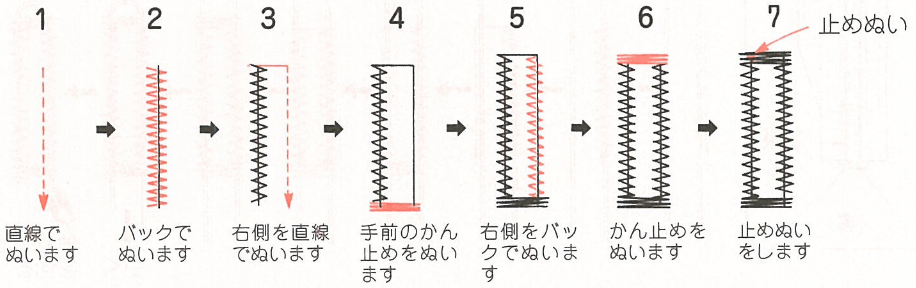
長さが決まりましたらボタンをはずします。

7 布地に印をつけます



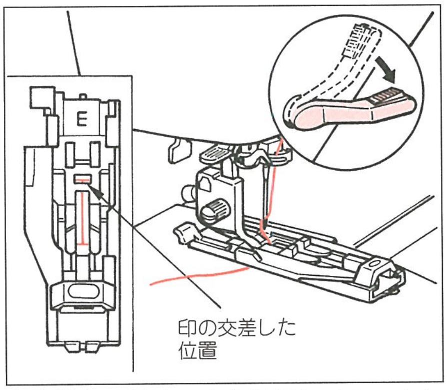
ボタン穴の位置にチャコでI印をつけます。

●自動ボタン穴かがりのぬわれる順序



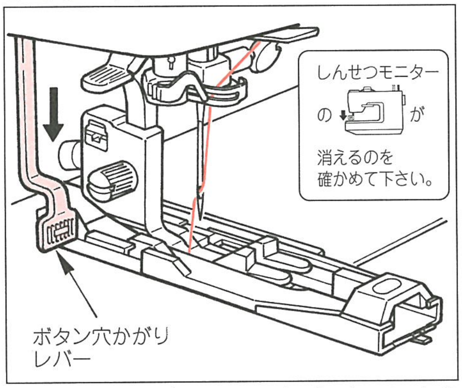
ぬい終ると止めぬいをして、自動的に止まります。

8 印に合わせて押えをさげます



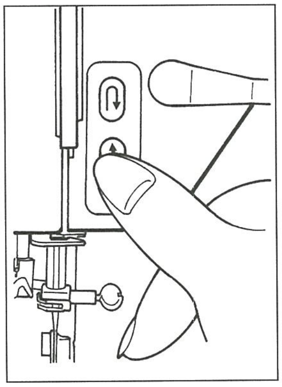
印を押えの針穴の中心に正しくセットして、押えをさげます。

9 ボタン穴かがりレバーをさげます



レバーを止まるところまでさげると、しんせつモニターの表示ランプが消えます。

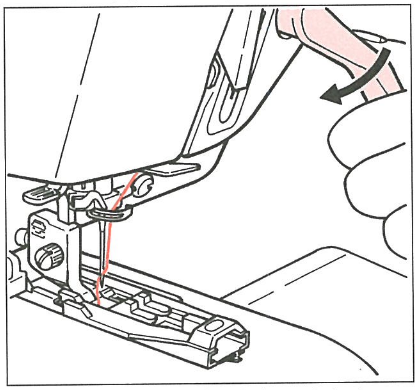
10 スタートさせます



スタート・ストップスイッチを押します。

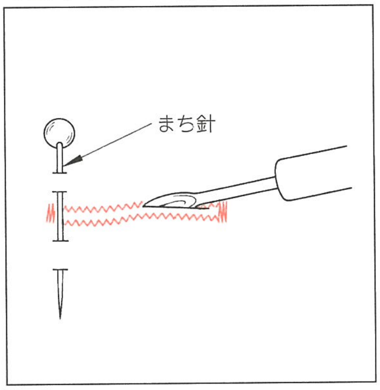
※レバーをさげないでスタートさせると、しんせつモニターが点滅しミシンが動きませんのでレバーをさげます。
※ボタン穴の大きさを間違えたり、途中で糸切れしたとき、ミシンを止めて模様選択キーをもう一度押しますと、最初からぬうことができます。

11 ぬい終ったら糸を切ります



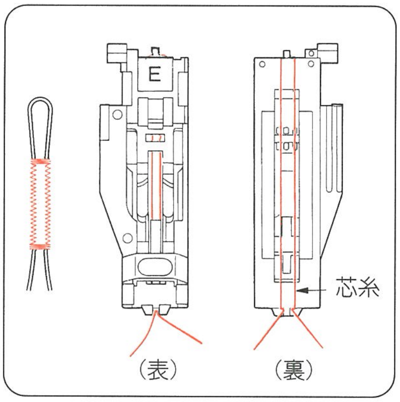
※切りレバーをさげて糸を切ります。
※ボタン穴の2個目からは布地の次の印に合わせ、押えをさげてぬうことができます。

12 リッパーで穴をあけます

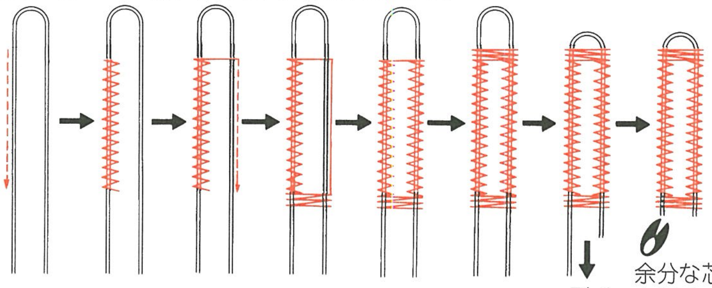


リッパーでぬい糸を切らないように中央の布地を切り開きます。
穴かがりの端にまち針をさしますと切りすぎがありません。

●芯入りボタン穴かがりの芯のかけ方



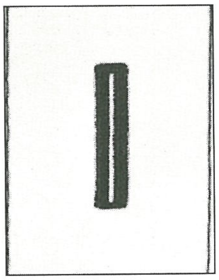
芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。
芯糸にはレース糸、または穴糸を使用します。



芯糸入りのボタン穴かがりをするときは、芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。そのままボタン穴かがり押えをとりつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

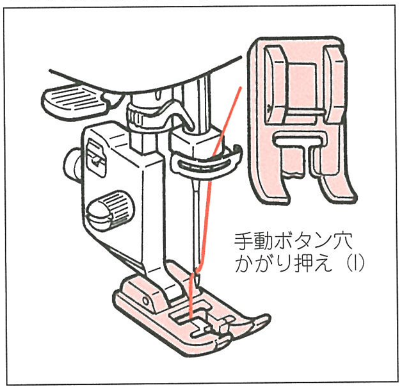
⚠注意　押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

■手動ボタン穴かがり



厚地の布を使った短冊あきや、台襟の部分に穴かがりをする場合に用います。

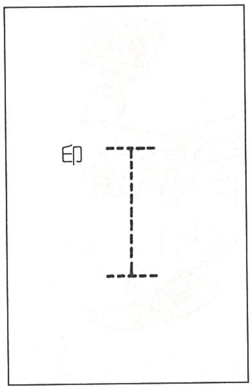
1 押えをかえます



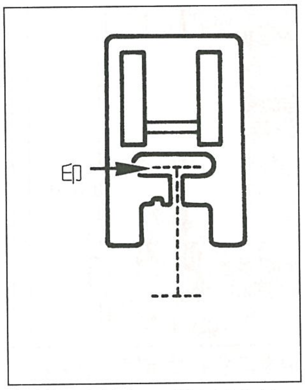
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます

3 布地に印をつけます

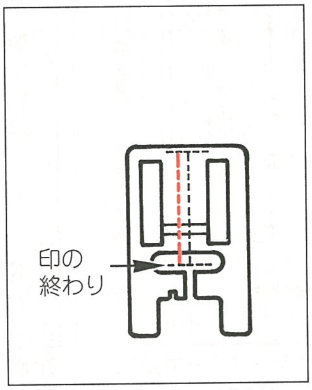


4 布地の印に合せてスタートさせます



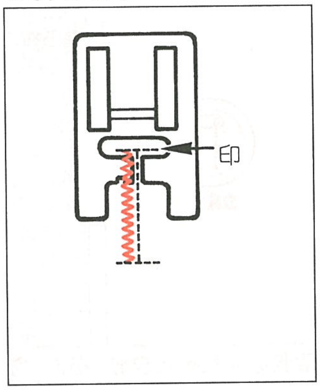
左側の直線ぬいがはじまります。

5 印の最後で返しぬいスイッチを押します



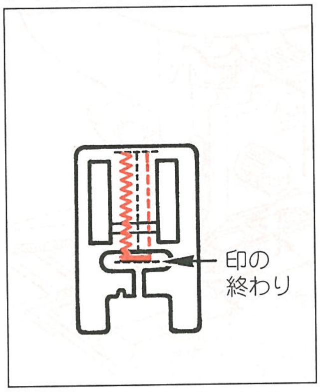
バックで左側のぬいがはじまります。

6 最初の印にきたら返しぬいスイッチを押します



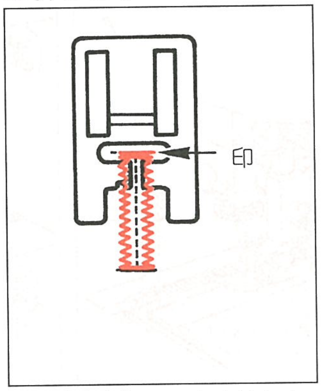
右側の直線ぬいがはじまります。

7 印の最後で返しぬいスイッチを押します



かん止めをして、バックで右側のぬいがはじまります。

8 最初の印にきたら返しぬいスイッチを押します



かん止めをして、止まります。

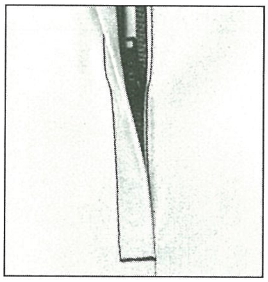
便利な使い方

4～8の操作で、ボタン穴かがりの長さがミシンに記憶されます。
同じ長さのボタン穴かがりをぬうには、ぬう場所を変え、スタート・ストップスイッチを押しますと、返しぬいスイッチを押さなくても、自動的に穴かがりがぬわれ、止まります。

注意

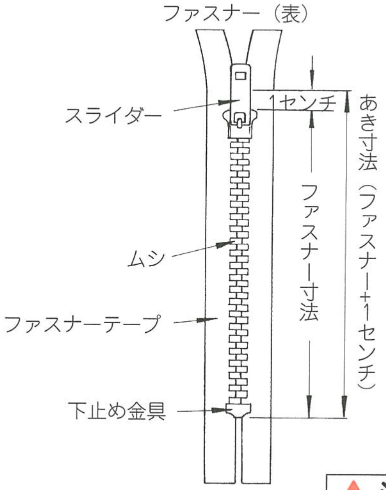
異なる長さのボタン穴かがりをぬう場合や途中でやり直す場合は、再度「手動ボタン穴」の模様ボタンを押します。
前にぬった記憶が消去されます。

■脇あきファスナーつけ



スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。

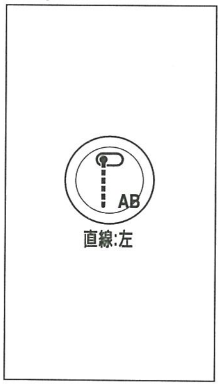
●ファスナーの名称とあき寸法



⚠注意

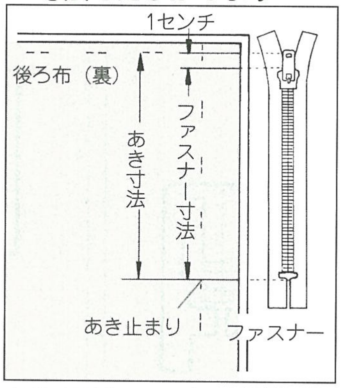
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 模様を選びます



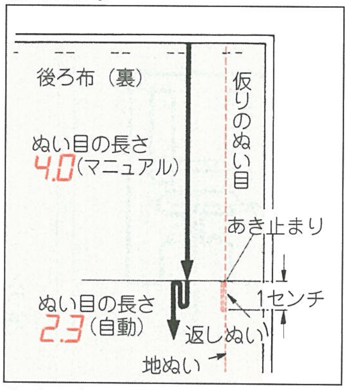
電源を入れると自動的に直線（左基線）が選ばれます。

2 ファスナーのあきの寸法をたしかめます



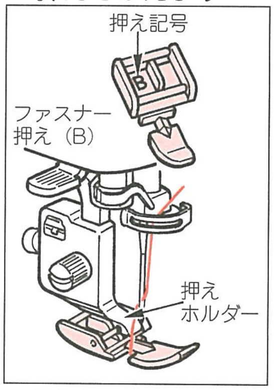
あき寸法はファスナー寸法に1センチプラスした寸法です。

3 基本押え（A）を使い仮りのぬいと地ぬいをします



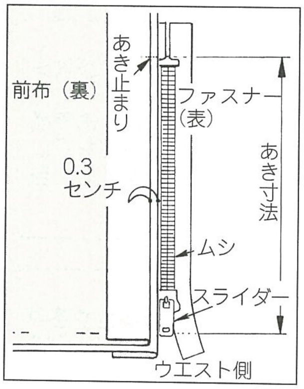
布地を中表に合わせ布端よりあき止まりまで仮りのぬい目（4.0）でぬい、あき止まりからぬい目を「自動」に変えて1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。

4 押えをかえます



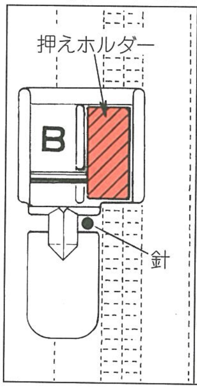
※押えのつけ方は10ページ参照

5 ぬい代をわります

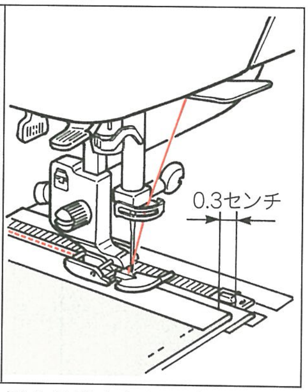


ぬい代をきちんとわり、後ろ布のぬい代を0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

6 左側をあき止まりからぬいます

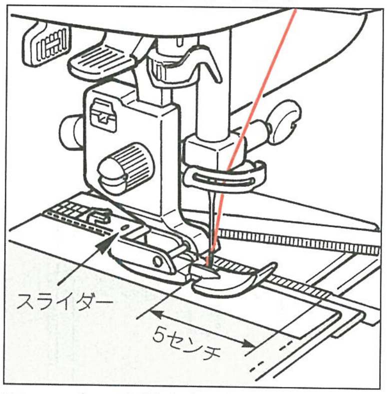


ファスナー押えの右側にセットします。



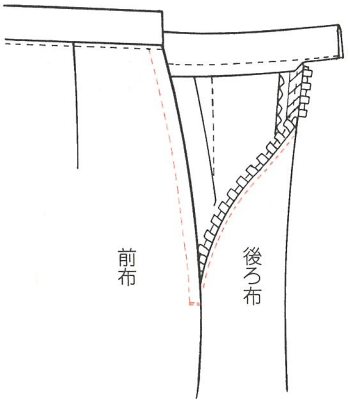
押えの端をムシのきわに当て後ろ脇にファスナーの片方をつけあき止まりからぬいます。

7 スライダーをさげます

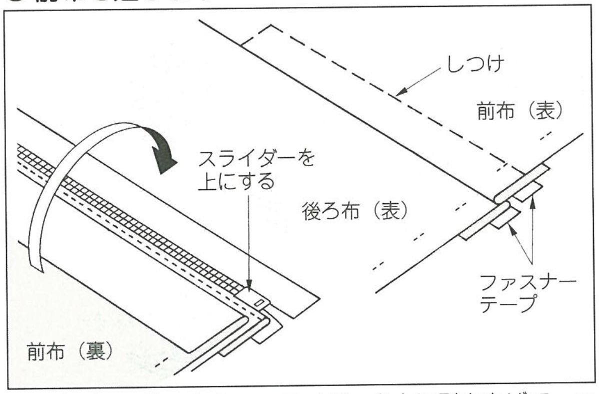


ファスナーの端から5センチくらい手前でミシンを止め、押えをあげてスライダーを押えの向こう側へさげ、押えをおろして端までぬい止めます。

●スカートの例

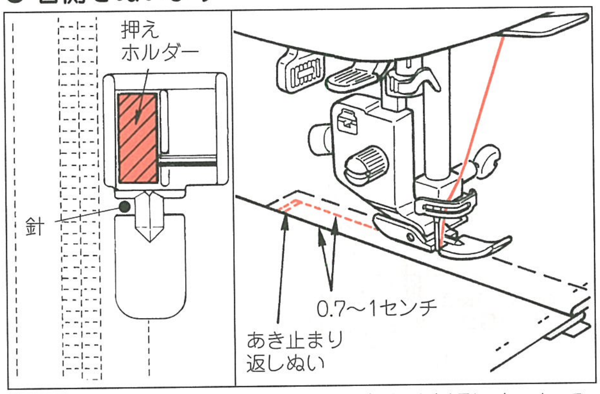


8 前布を返します



後ろ脇がぬい終ったら、スライダーを上に引きあげて、つまみの金具を上に倒し、前布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布とファスナーテープをしつけで止めます。

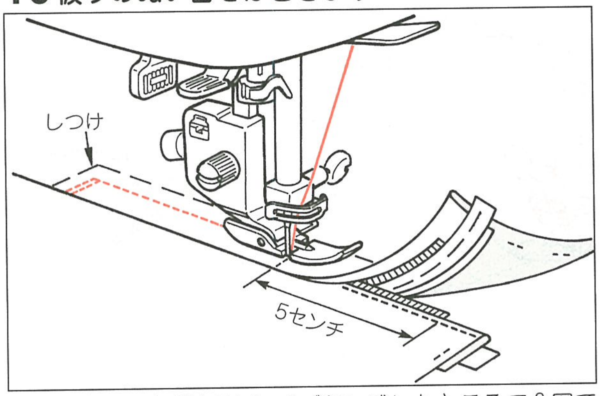
9 右側をぬいます



ファスナー押えの左側にセットします。

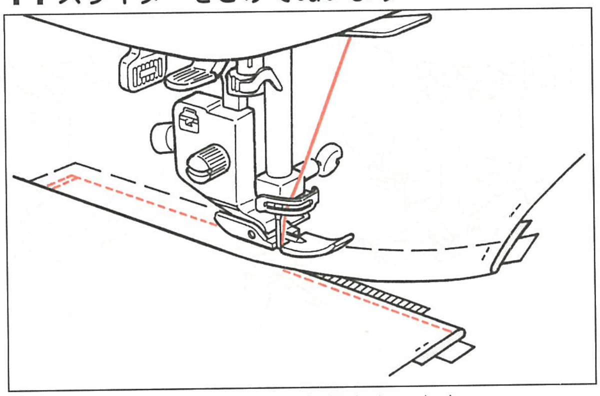
前脇のあき止まりを返しぬいして押えの端をスライダーのきわに当て0.7〜1センチのミシンをかけます。

10 仮りのぬい目をほどきます



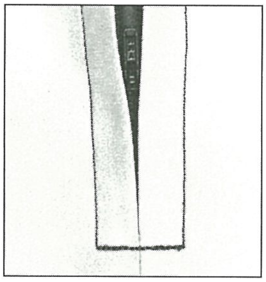
ファスナーの上側を5センチぐらい残したところで３図でぬった仮りのぬい目をほどきます。

11 スライダーをさげてぬいます



スライダーをさげて、残りの部分をぬいます。

■つき合わせファスナーつけ

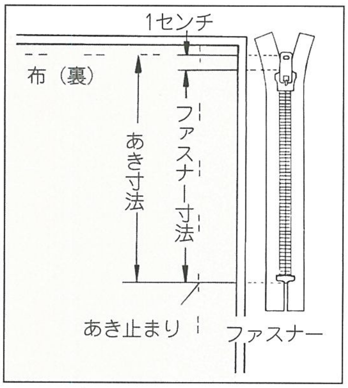


バック、クッション、カバー類に使われるファスナーつけの方法です。

1 模様を選びます

電源を入れると自動的に直線（左基線）が選ばれます。

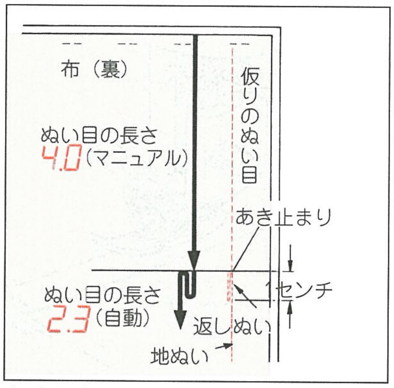
2 布地の準備をします



ファスナーあきの寸法をたしかめます。

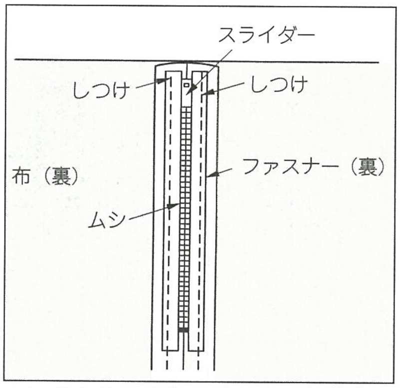
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

3 基本押え（A）を使い、仮りのぬいと地ぬいをします



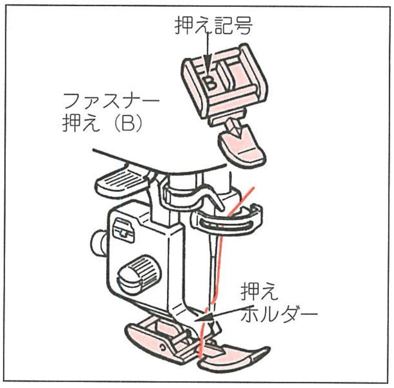
布地を中表に合わせ布端よりあき止まりまで仮りのぬい目（4.0）でぬい、あき止まりからぬい目を「自動」に変えて1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。

4 ぬい代をわります



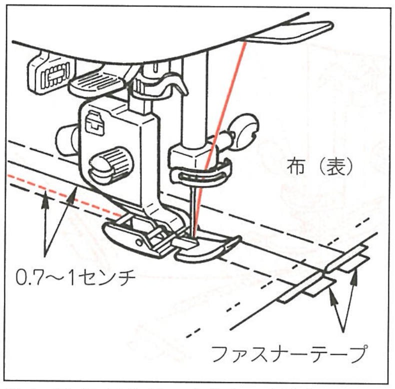
ぬい代をきちんとわり、ぬい目線とファスナーのムシの中心をつき合わせ、表までしつけで止めつけます。ファスナーのスライダーは上に倒します。

5 押えをかえます



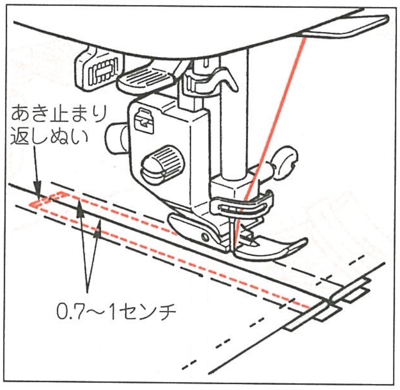
※押えのつけ方は10ページ参照

6 左側をあき止まりからぬいます



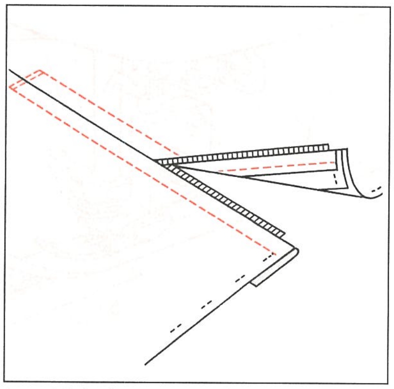
ぬい目から0.7～1センチはなして、あき止まりより上に向かってミシンをかけます。

7 右側をぬいます



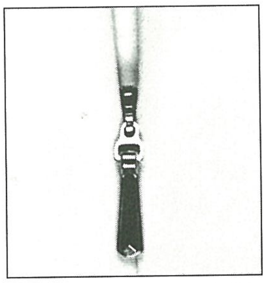
あき止まりを返しぬいで丈夫にぬい止めもう一方も0.7～1センチはなしてミシンをかけます。

8



しつけと3図でぬった仮りのぬい目（4.0）の部分のみほどきます。

■コンシールファスナーつけ



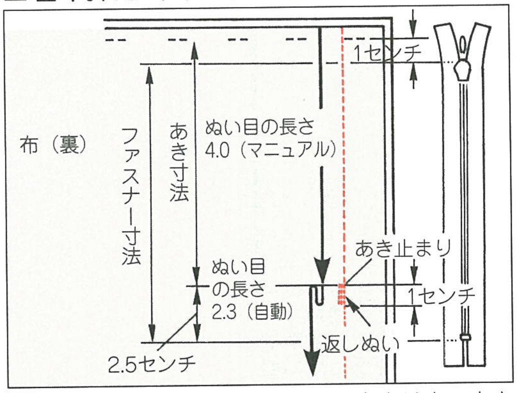
ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないで、つき合わせの状態であきの始末ができます。

※コンシールファスナーのあき寸法
＝ファスナー寸法ー1.5センチ

1 模様を選びます

電源を入れると自動的に直線（左基線）が選ばれます。

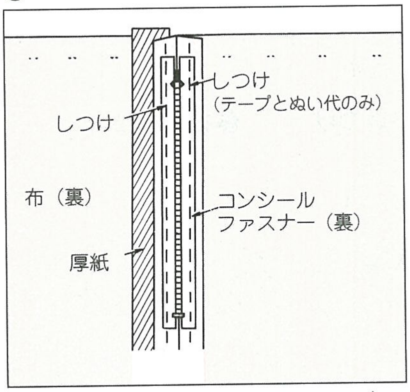
2 ファスナーのあきの寸法をたしかめ基本押え（A）でぬいます



布地を中表に合わせ布端よりあき止まりまで大きなぬい目（4.0）でぬい、あき止まりからぬい目を（2.3）に変えて1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬい代をきちんとわります。

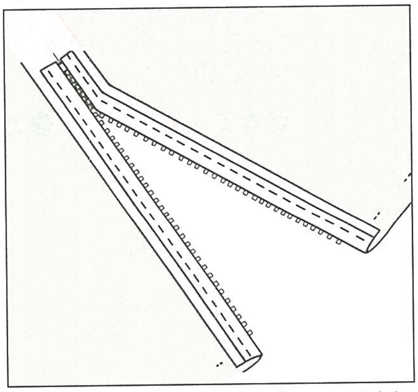
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

3



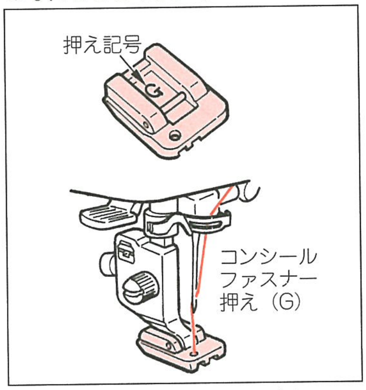
ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬい代と表布の間に厚紙を入れ、ぬい代とファスナーテープを両側ともしつけでぬい止めます。しつけぬいが終ったら厚紙をとります。

4



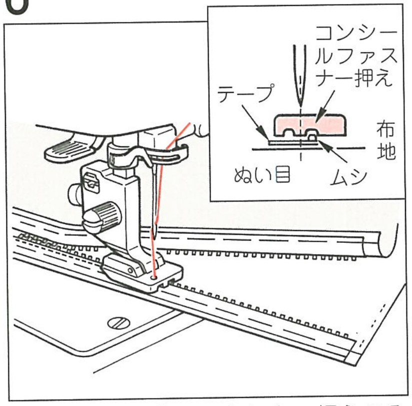
2図のあき止まりまでぬったぬい目をほどき、ファスナーを開きます。

5 押えをかえます



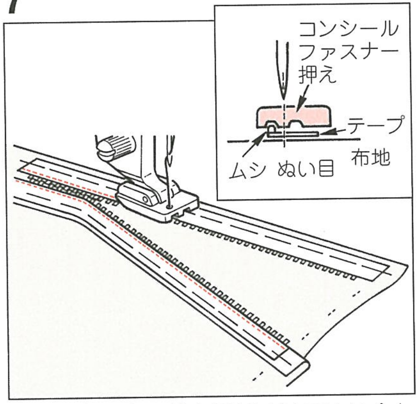
※押えのつけ方は10ページ参照

6



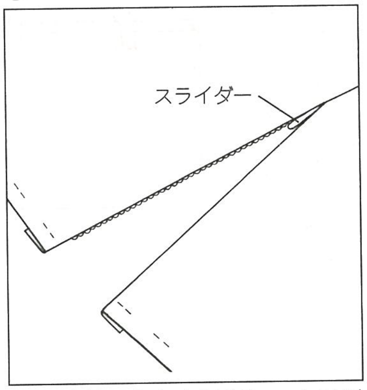
一方のファスナーのムシを、押えのみぞに合わせ、指でムシを立てるようにします。ムシのきわに、あき止まりからミシンをかけます。

7



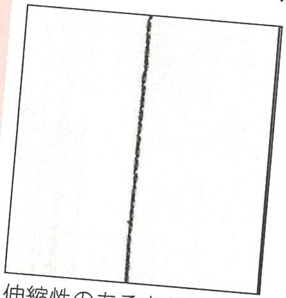
もう一方のぬい代も同じ方法でぬい合わせます。（ファスナーテープのあき止まりから下の部分は、ぬい代にぬいつけられずに残ります。）

8



スライダーを中より出し、上に引きあげます。

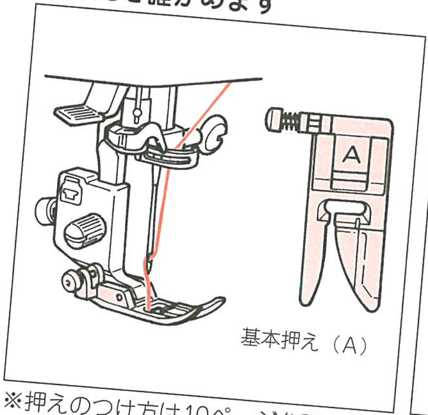
■伸縮強化ぬい（ストレッチステッチ）



伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。

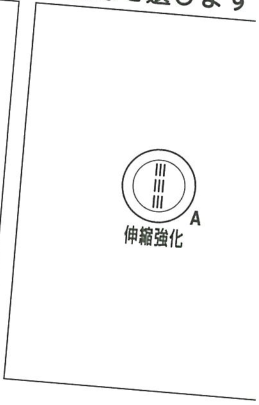
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってくださ

1 押えを確かめます



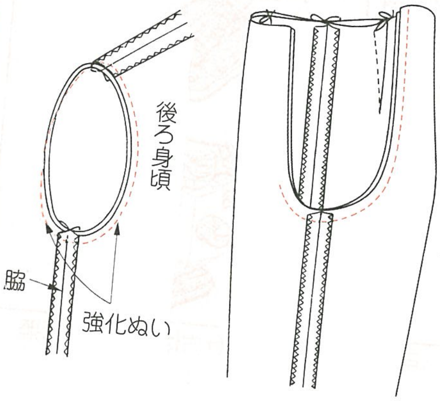
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます



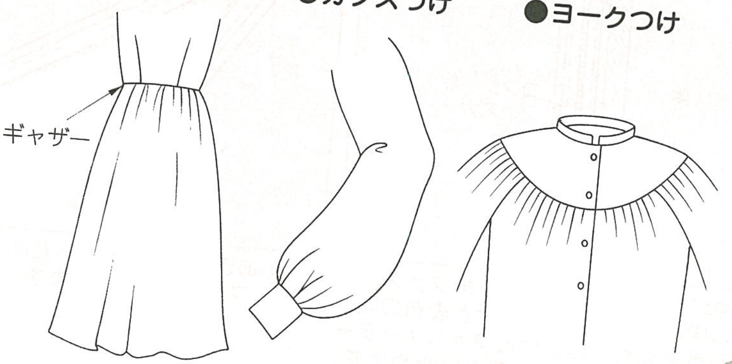
●**袖つけ**
後ろ袖や、袖下に力がかかりほつれやすいところに使います。

●**パンツ類の股ぐり**
二度ぬいするときに便利です。



ぬい合わせる布の一方にギャザーやタック、プリーツなどが入っているとき（ウエストはぎ、カフスつけ、ヨークつけなど）使うと、ぬい目がしっかりとできあがります。

●**ウエストはぎ**　●**カフスつけ**　●**ヨークつけ**

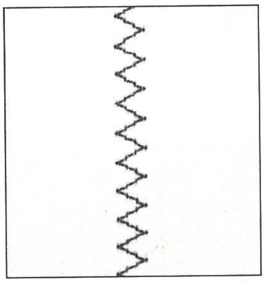


●**袋もののとってつけ**

●**よく使用するポケットつけ**

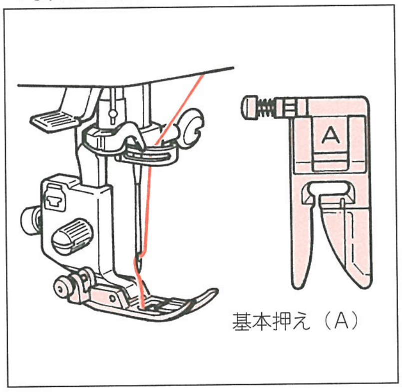
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

■三点ジグザグぬい



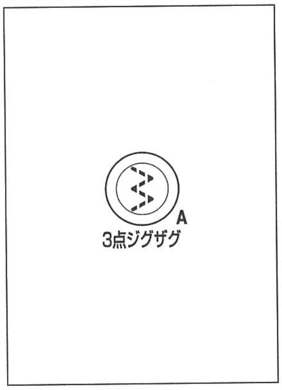
ゴムテープ、吊りテープ、インサイドベルトを布地にぬい止める場合や伸縮素材の裁ち目かがりなどに、三点ジグザグぬいを使います。

1 押えを確かめます

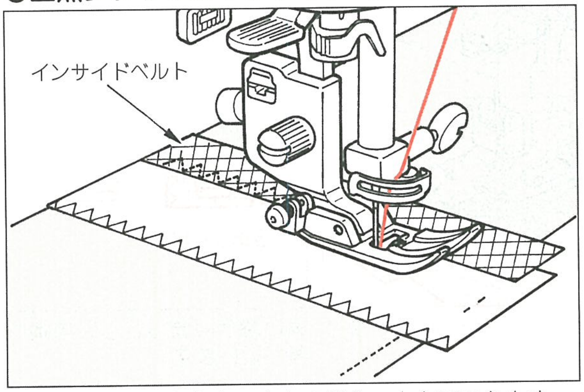


※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます

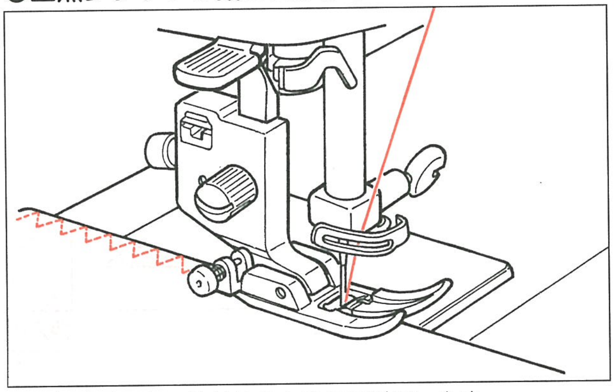


●三点ジグザグのインサイドベルトつけ



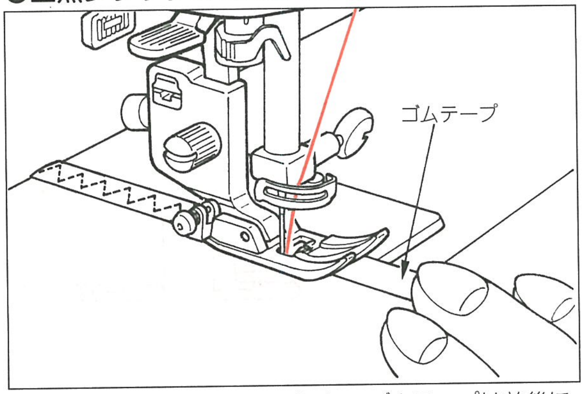
インサイドベルトをぬい止める場合、丈夫にできます。

●三点ジグザグの裁ち目かがり



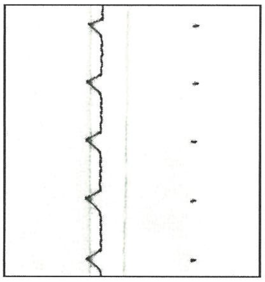
ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。
布端より織糸の1～2本内側に針が落ちるようにぬいます。

●三点ジグザグのゴムひもつけ



押え調節ダイヤルを「よわい」にし、ゴムテープは前後にのばしながらぬいます。

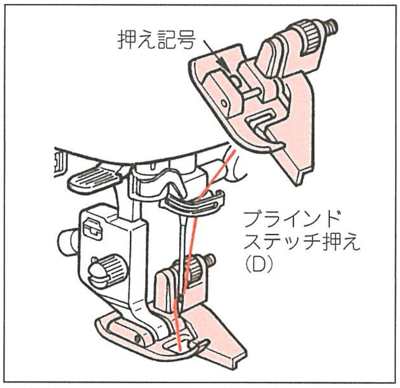
■まつりぬい
（ブラインドステッチ）



スカートやワンピースなどの裾のまつりが、かんたんにできます。

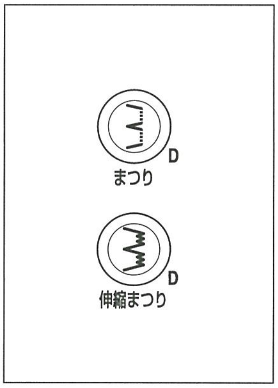
⚠注意　押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをかえます



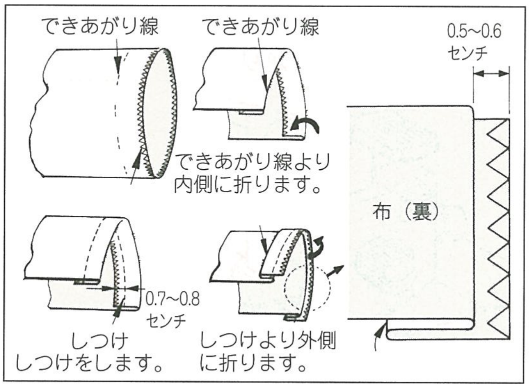
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます



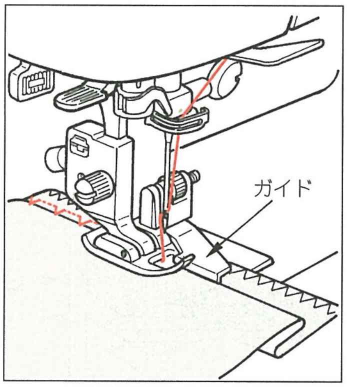
普通地・厚地の場合

1 裁ち目かがりをして布地を折ります



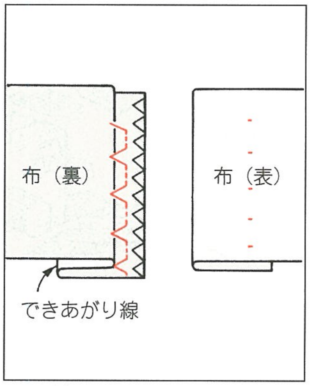
裁ち目かがりは21ページ参照

2 押えのガイドにあてて ぬいます



押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいます。

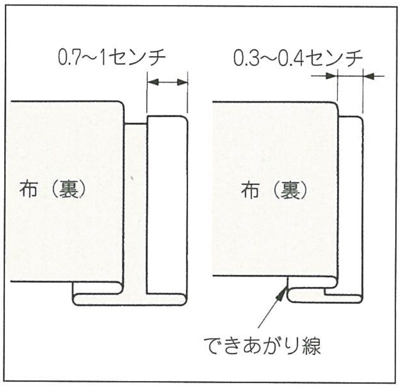
3 布地をかえします



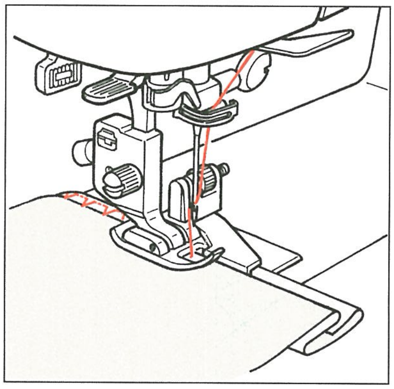
ぬい終わりましたら、布地を折り返します。

薄地の場合

1 布地を折ります

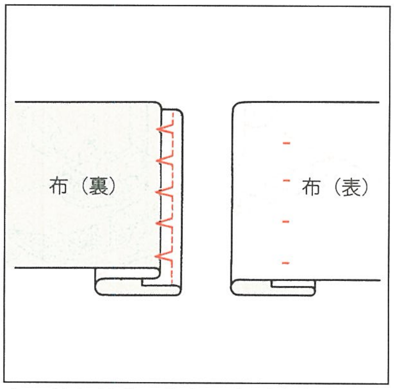


2 押えのガイドにあてて ぬいます



押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいます。

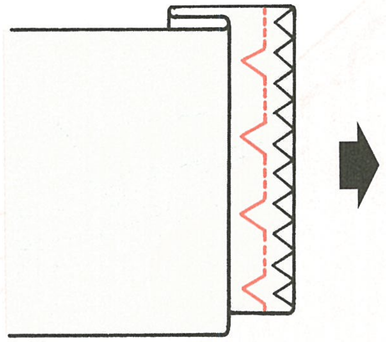
3 布地をかえします

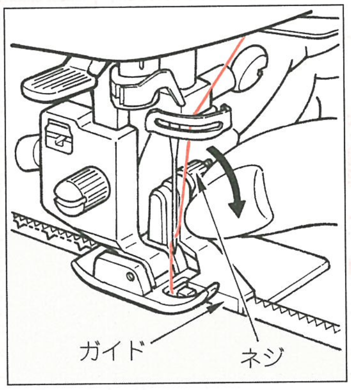


ぬい終わりましたら、布地を折り返します。

●ブラインドステッチ押えのガイド調節方法

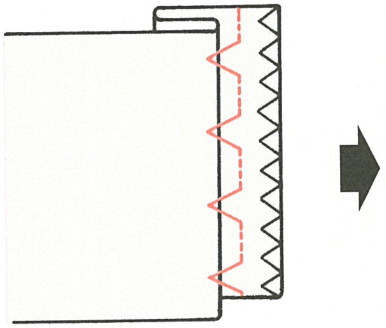
■折り山にぬい目がかからない場合

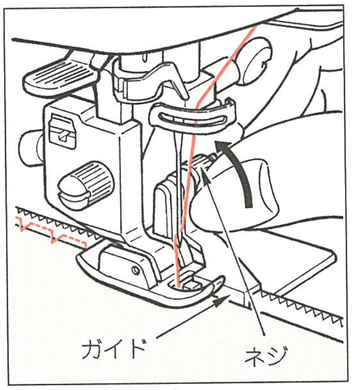




針が折り山にかかっていないとき、ネジを手前に回しますとガイドは右へ移動します。移動したガイドに布の折り山をピッタリつけます。

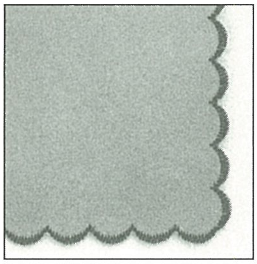
■折り山にぬい目がかかりすぎた場合





針が折り山にかかりすぎるとき、ネジを向こう側に回しますとガイドが左へ移動します。
移動したガイドに布の折り山をピッタリつけます。

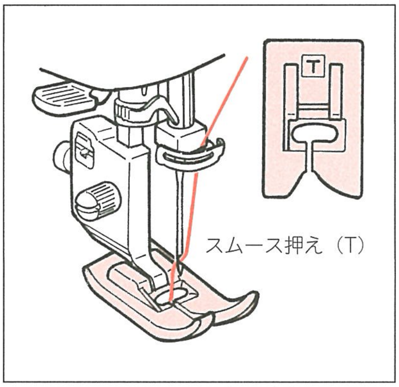
■スカラップぬい



テーブルクロスやブラウスの衿など、ふち飾りに使います。

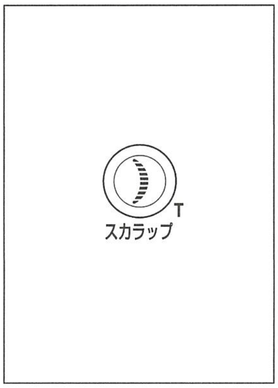
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをかえます

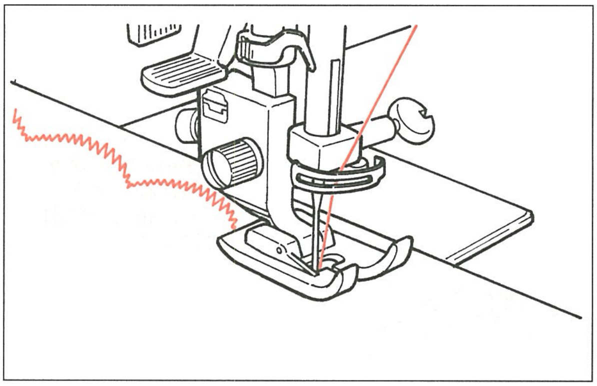


※押えのつけ方は10ページ参照

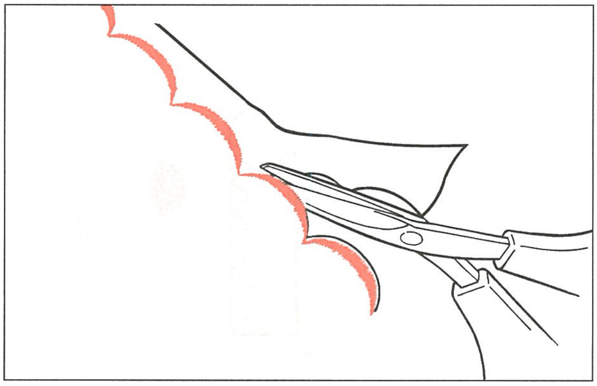
2 模様を選びます



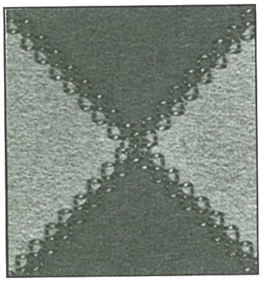
3 布端に模様がかからないように端を残してぬいます



4 糸を切らないようにぬい目にそって切ります



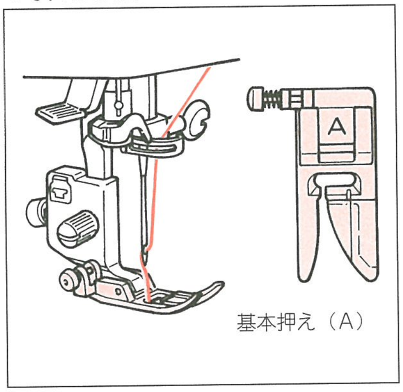
■パッチワーク



模様ぬいを使っていろいろな布をはぎ合わせます。

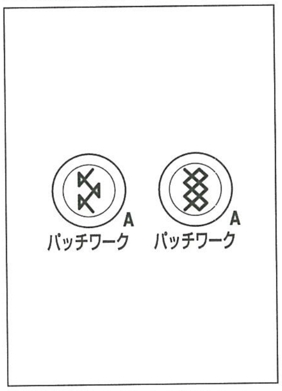
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えを確かめます



※押えのつけ方は10ページ参照

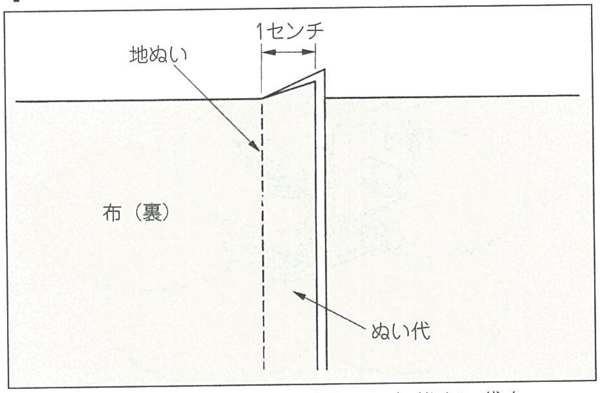
2 模様を選びます



お好みの模様を選びます。

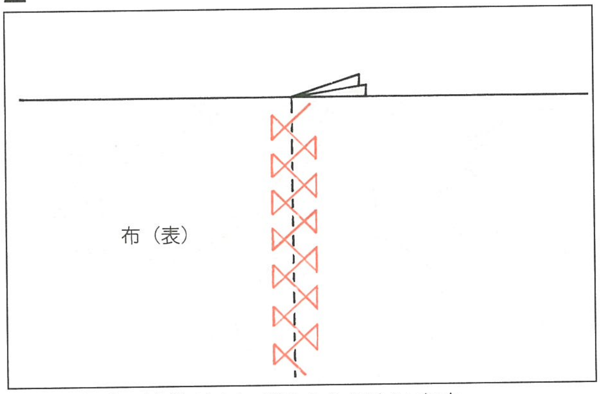
重ねはぎ

1



2枚の布地を中表に合わせ、地ぬいした後ぬい代を片返しにします。

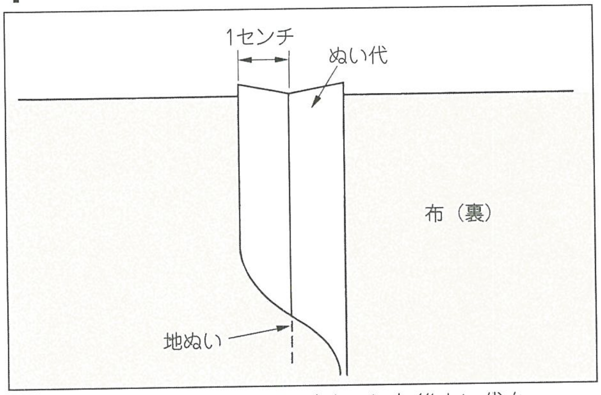
2



両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

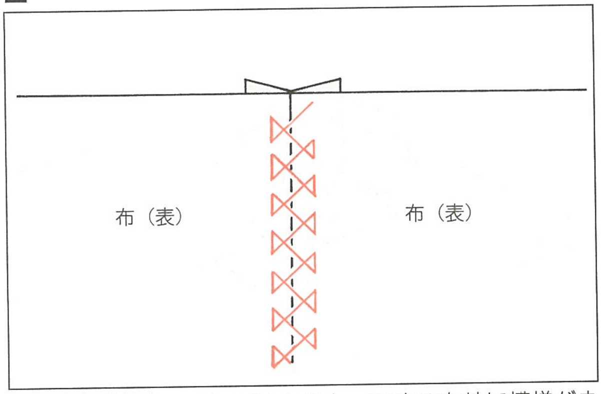
割りはぎ

1



2枚の布地を中表に合わせ、地ぬいした後ぬい代をきれいに割ります。

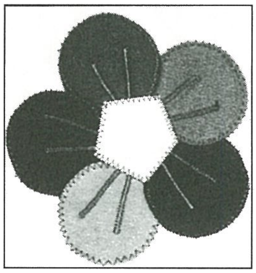
2



突き合わせになっている表布から、両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

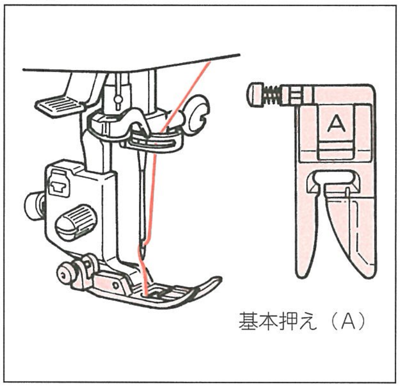
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

■アップリケ



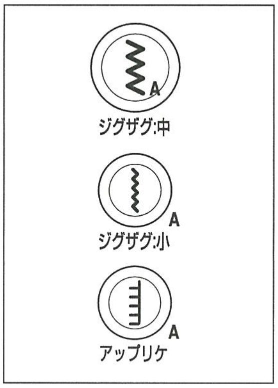
市販のアップリケ布や、自分で切り抜いたアップリケ布を丈夫に、簡単にぬいつけられます。

1 押えを確かめます



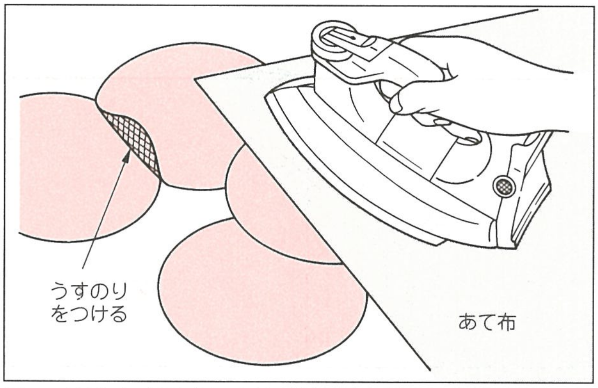
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます



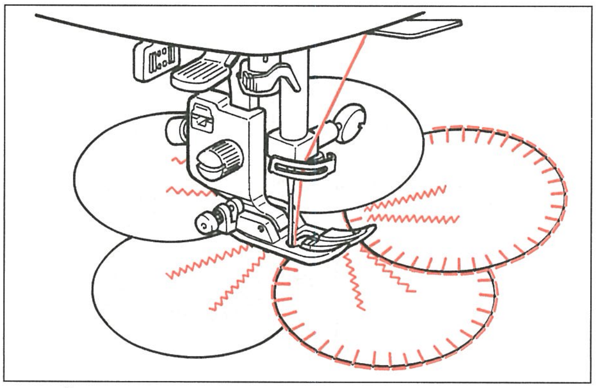
お好みの模様を選びます。

3



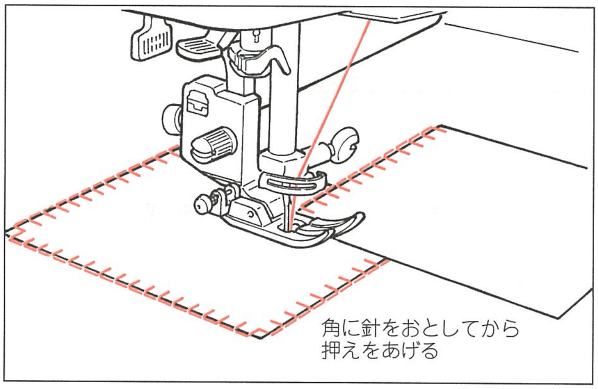
アップリケ布を正確にのりづけ、またはしつけ止めし、あて布をあててかるくアイロンで押えます。

4



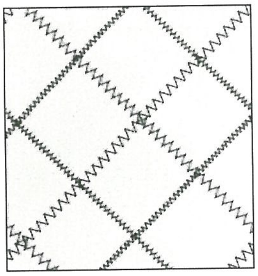
アップリケの布端を裁ち目かがりと同じ要領で、ぬいつけます。ぬい始めと終りは返しぬいスイッチを押して止めぬいをします。カーブの強いものは振り幅小のジグザグ模様を選びます。

5



急角度のところや、布地の方向を変えるときは、アップリケの布端に針をおとした状態で方向を変えるようにします。

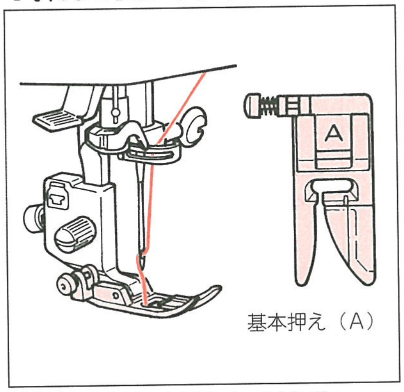
■キルティング



２枚の布地を合わせ、平行にぬい目を入れていく方法で、布地の間に綿などを入れると、防寒や、装飾に役立ちます。

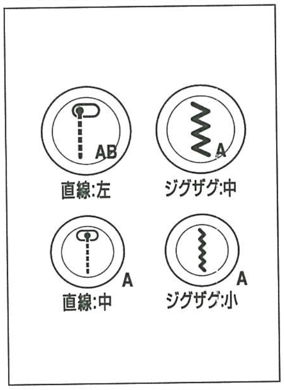
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えを確かめます



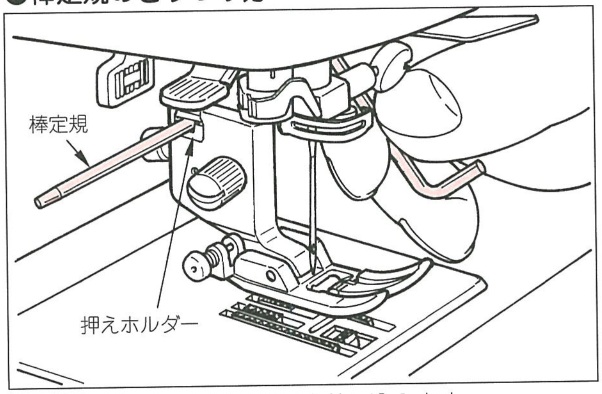
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます



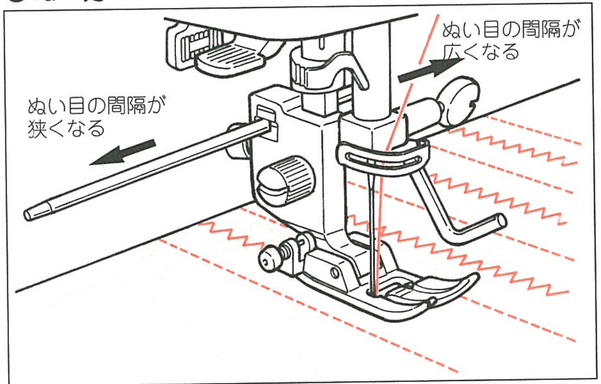
直線・ジグザグ模様のうち、お好みの模様を選びます。

●棒定規のとりつけ方



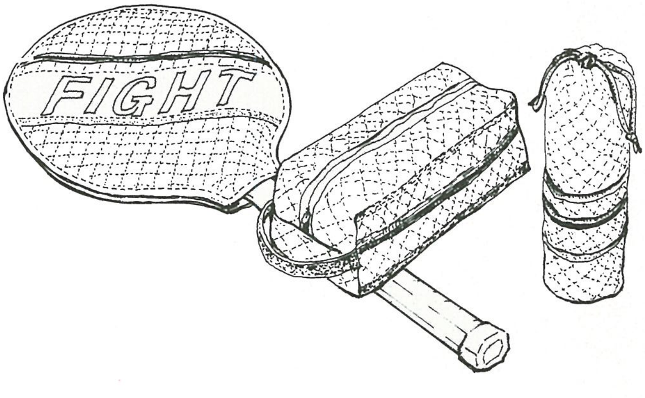
押えホルダーのみぞに棒定規を差し込みます。

●ぬい方

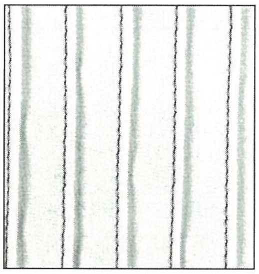


棒定規の先で前にぬったぬい目をたどりながらぬいます。
左右の間隔が自由に調節できます。

応用例



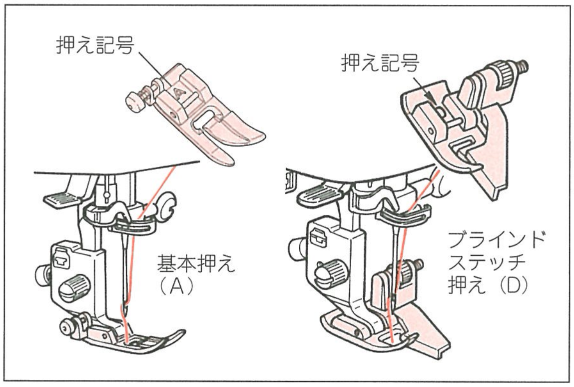
■ピンタック



ブラウスの前身頃やエプロンの装飾などに利用します。

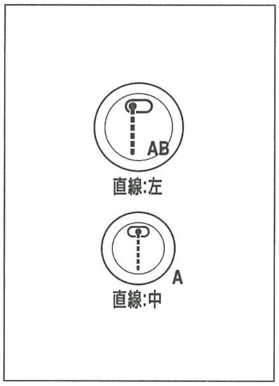
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをかえます



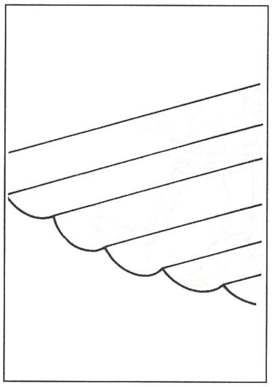
基本押え（A）またはブラインドステッチ押え（D）を使います。
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます



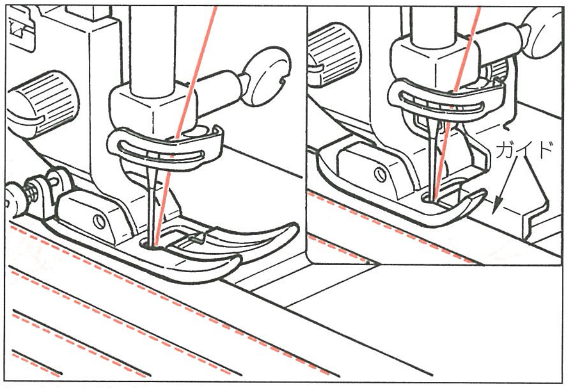
電源を入れると自動的に直線（左基線）が選ばれます。

3



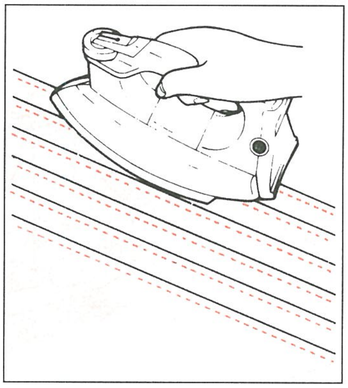
ピンタックの折り山をアイロンで折り整えます。

4



折り山を伸ばさないようにぬいます。
（ブラインドステッチ押えのガイドを利用するときれいにできます。）

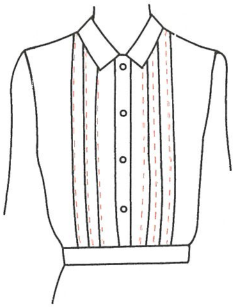
5



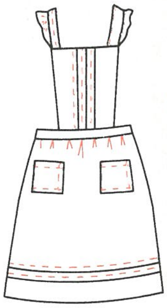
ぬい終ったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

応用例

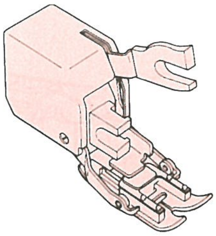
●ブラウス



●エプロン



■上送り押え

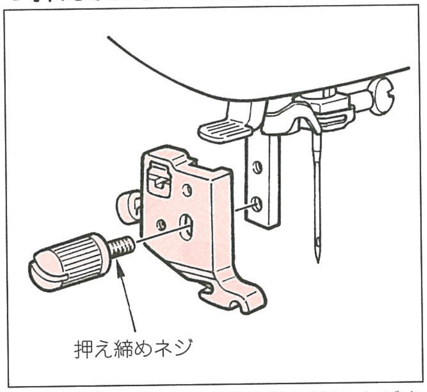


一般にミシンで送りにくい素材（ニット、ジャージー、キルティング、サテン、ビニールクロス、人工皮革、皮など）に使います。
滑らかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

⚠注意

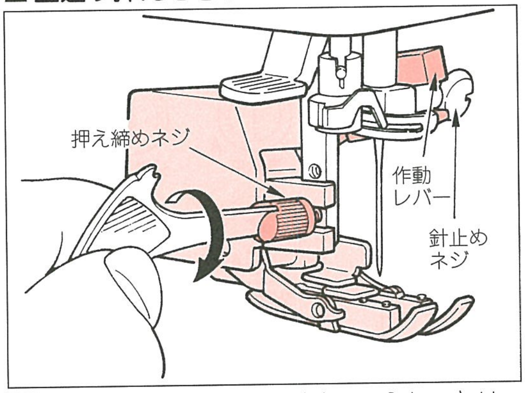
押えホルダーや上送り押えのとりつけとりはずしのときは電源スイッチを切ってください。

1 押えホルダーをはずします



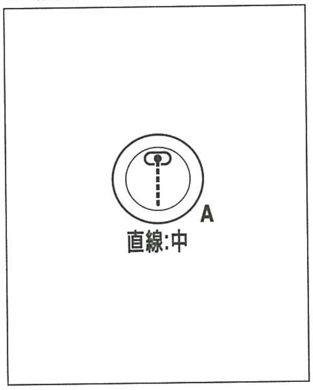
押え上げレバーをあげて押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

2 上送り押えをとりつけます

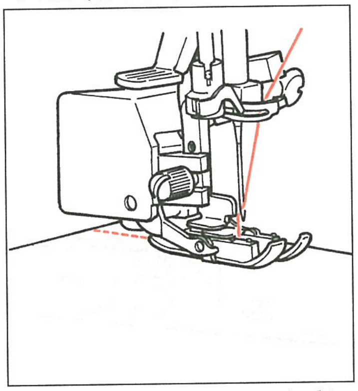


作動レバーの二また部分を針止めに入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりしめます。

3 模様を選びます

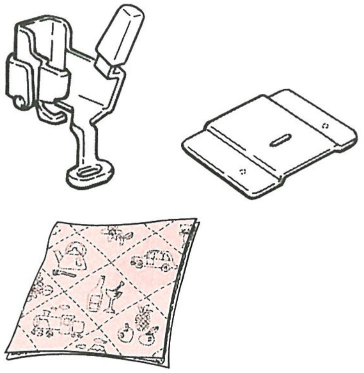


4 ぬい始めます



※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。
※ニット、ジャージーなど伸縮性のある素材は押え調節ダイヤルを「よわい」にします。

■キルトアタッチメント（キルト押え＋送り歯カバー）

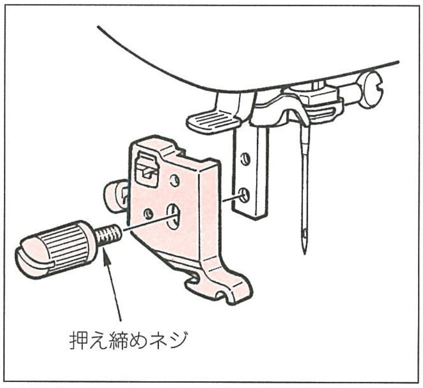


キルト芯を入れて
オリジナルキルトが作れます。
フリー刺しゅうにも最適です。

⚠注意

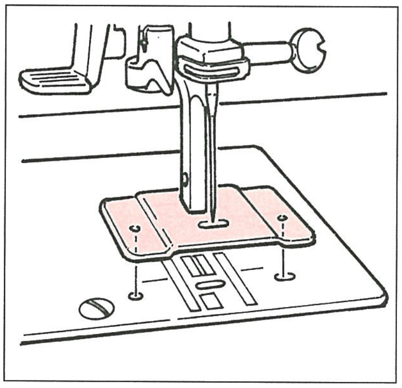
押えホルダーや
キルトアタッチメント
のとりつけとりはずしの
ときは電源スイッチを
切ってください。

1 押えホルダーをはずします

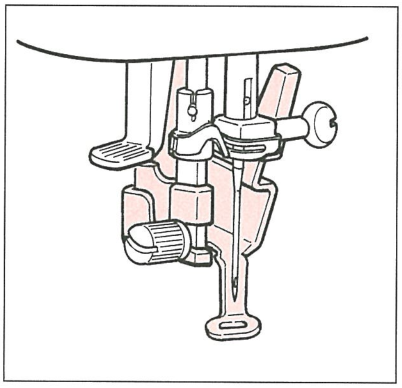


押え上げレバーをあげて押え締めネジを
はずし、押えホルダーをはずします。

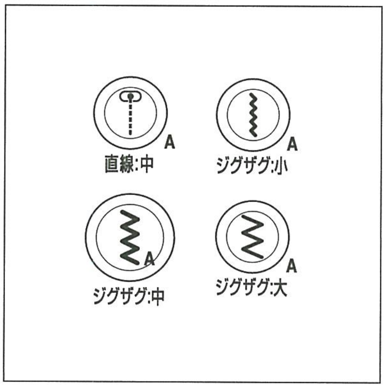
2 送り歯カバーをとりつけます



3 キルト押えをとりつけます

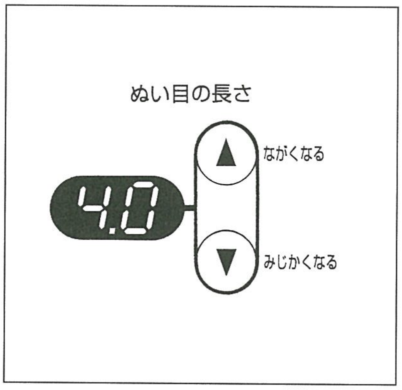


4 模様を選びます

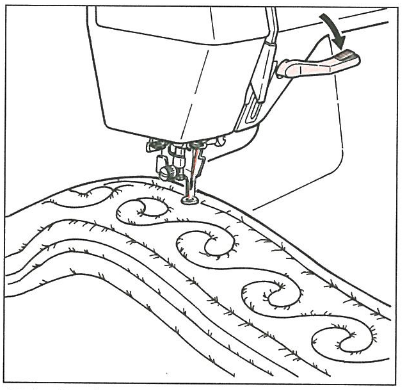


お好みの模様を選びます。

5 ぬい目の長さを4.0にします



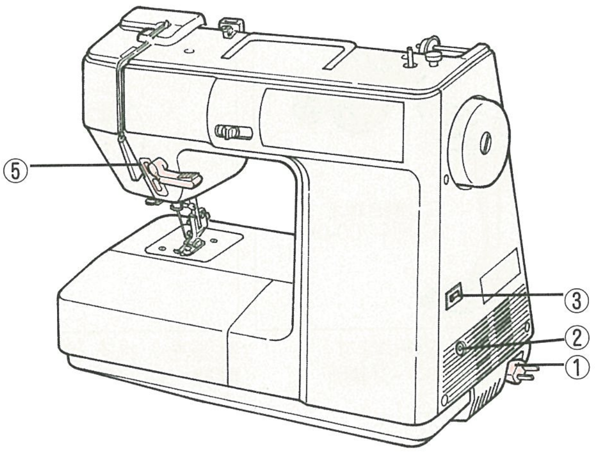
6

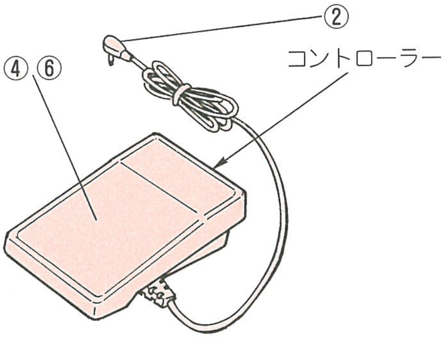


押え上げレバーをさげてぬい始めます。

■コントローラー

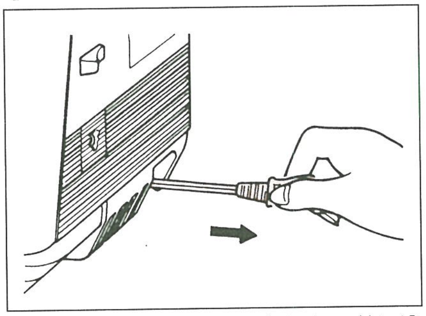
⚠注意 ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。





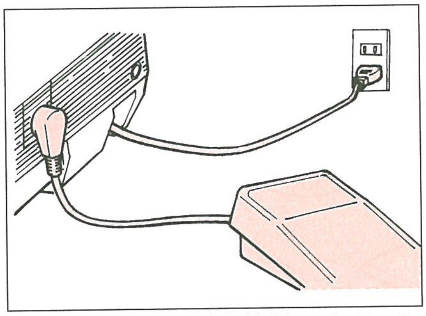
※コントローラーを使うときは、
スタート・ストップスイッチは
ストップのみ有効です。
ぬい速度調節レバーは使えません。

1



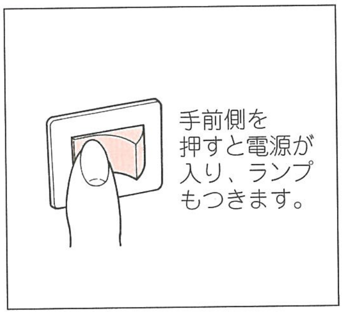
コードを引き出し、コンセントへ差し込みます。
※黄色の線以上は引き出さないでください。

2

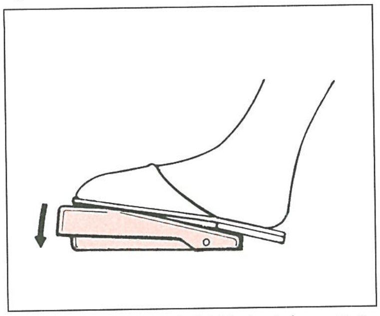


コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差し込みます。

3

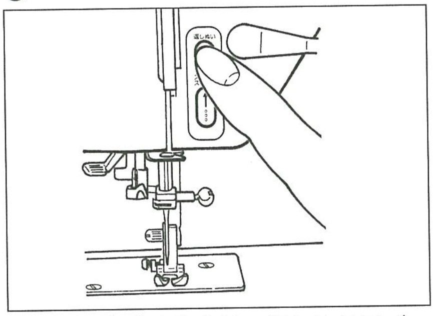


4



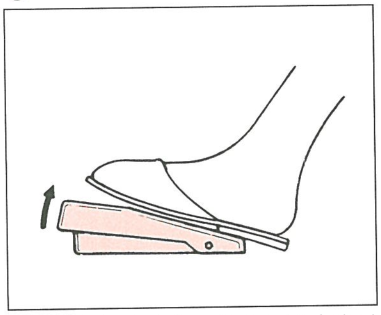
コントローラーを踏みますと、ミシンがスタートし、速度も調節できます。

5



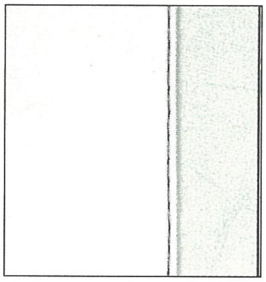
返しぬいをするときは、返しぬいスイッチを押します。

6



足をはなしますと、ミシンは止まります。針は布に入ったまま止まります。

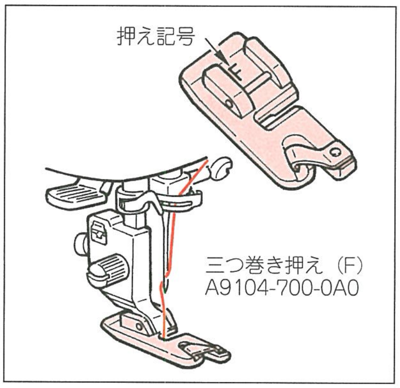
■三つ巻きぬい



布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

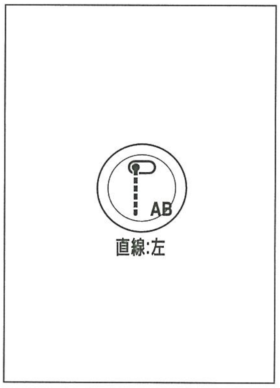
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをかえます



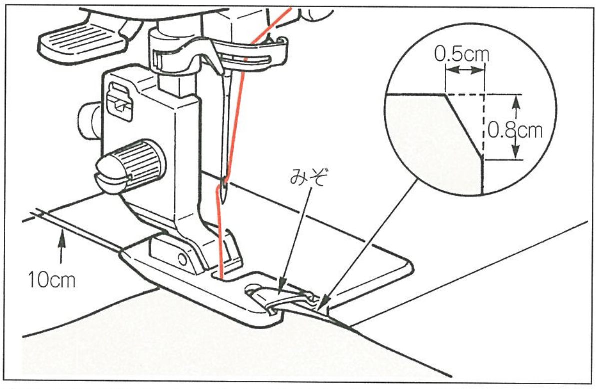
別売の三つ巻き押えを使います。
※押えのつけ方は10ページ参照

2 模様を選びます



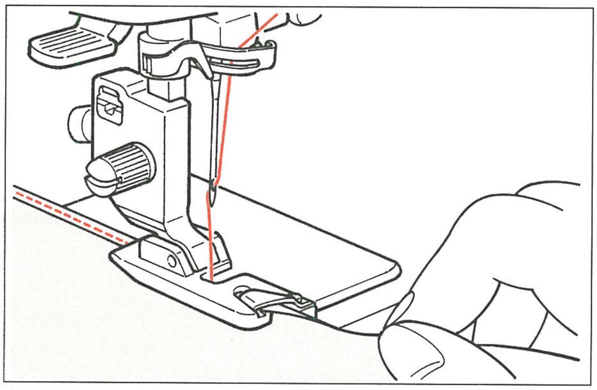
電源を入れると自動的に直線（左基線）が選ばれます。

3



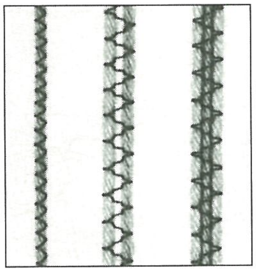
布地を巻き込みやすくするために角を少し切ります。押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから、針をおろして押えをさげます。

4



上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3～4回まわします。正しく巻き込まれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬいます。

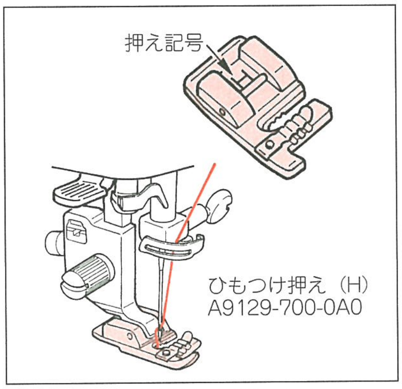
■ひもつけ（コーディング）



毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもを使い、子供服やエプロン、インテリア小物に応用します。
1本から3本のひもつけができます。

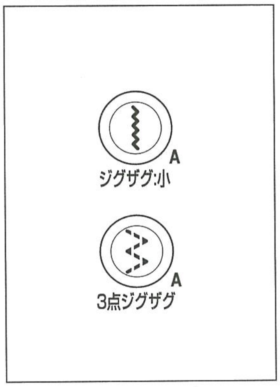
⚠注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

1 押えをかえます



別売のひもつけ押えを使います。
※押えのつけ方は10ページ参照

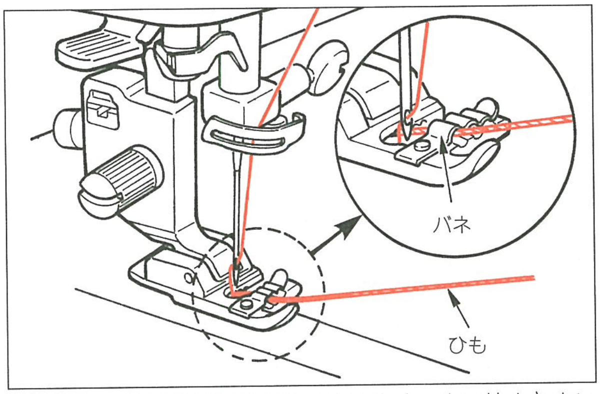
2 模様を選びます



ひもつけ1本のときは、振り幅小のジグザグ模様、2本、3本は三点ジグザグを選びます。

1本つけ

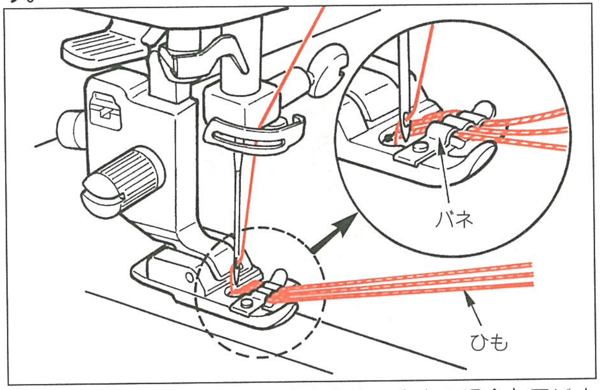
1本の場合は左端にひもを通し、ひもの先端を押えの裏にあるみぞにはめてから押えをさげます。



振り幅小のジグザグ模様でぬい止めます。ぬい始めとぬい終わりに返しぬいスイッチを押して止めぬいをします。
ひもは布地の裏に引き出して結び切ります。

3本つけ

3本の場合は全部にひもを通し、ひもの先端は1本の場合と同じように、押えの裏にあるみぞにはめて押えをさげます。

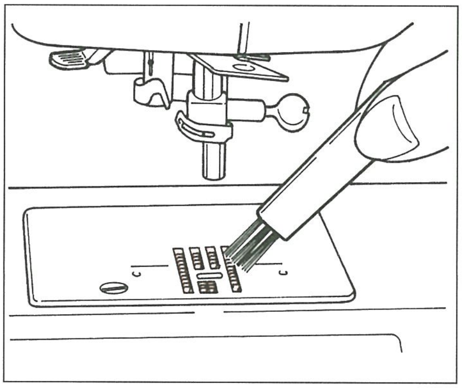


三点ジグザグの模様でぬい止めます。1本の場合と同じように止めぬいをして、ひもを布地の裏に出して結び切ります。
※2本つけの場合はひもを押えの両端にセットします。

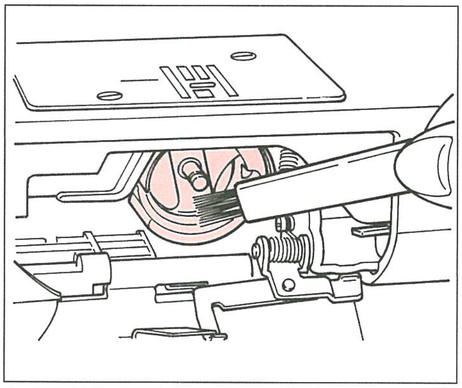
●糸くずやほこりの掃除について

注意 ミシンの掃除をするときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

糸くずやほこりがたまりますと、故障の原因となります。
常にきれいにしておきましょう。



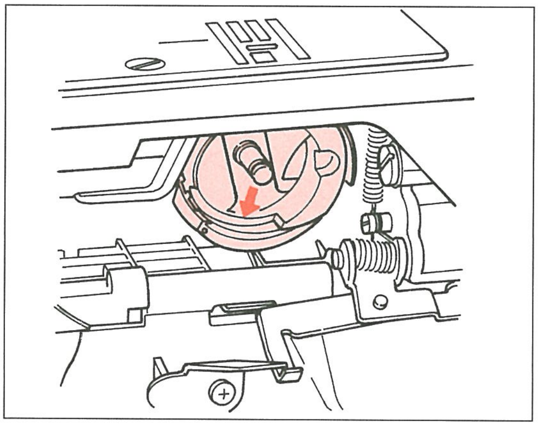
送り歯と針板の間は針や押えをはずして付属品の掃除用ブラシを使います。
たくさんたまってしまったときは掃除機を使うときれいになります。



かまの周辺も掃除用ブラシやピンセットなどで常にきれいにしておきましょう。

●注油の仕方

このミシンは特殊軸受けを採用していますので、普通にご使用の場合は注油の必要はありませんが、特に長時間ご使用の場合、または長い期間使わなかった場合は、下図の矢印の所に注油します。



注意 注油のときは電源スイッチを切り、室内コンセントからプラグを抜いてください。

①かまカバーを開け、ボビンケースをはずしてかまに１、２滴注油します。

②不要の布でためしぬいをし、かまに付着している余分な油をふき取ります。

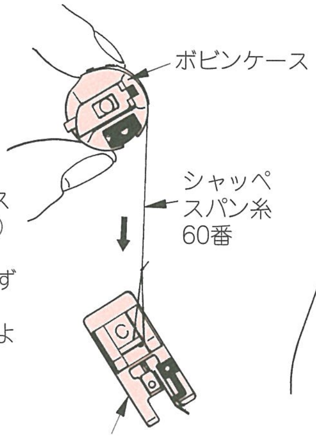
ご注意：多量の注油をしないでください。
糸や布に油が付着することがあります。

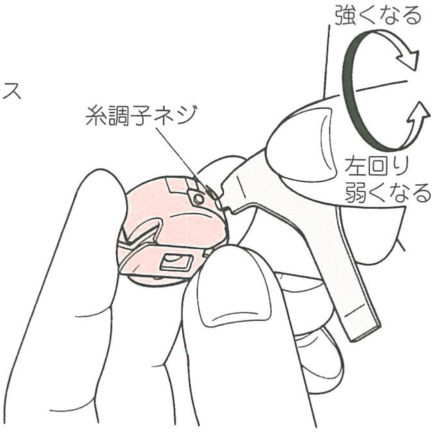
注意：
- 炎症、かぶれを防ぐため目や身体に油が付着したときは直ちに洗浄してください。
- 下痢、嘔吐を防ぐため誤って飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。
- 子供の手の届かないところに置いてください。
- 油の廃棄は法令で義務付けられていますので、それに従い適正に廃棄してください。

●ボビンケースの調整方法

同梱されているボビンケースの下糸の調子はすでに正しく調整されていますので、調整する必要はありませんが、もし調整を必要とする場合は、右の方法で行ってください。

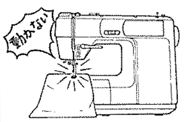
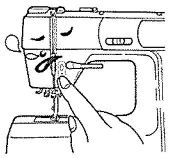
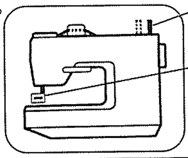
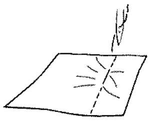
(1) シャッペスパン糸60番をボビンケースにセットして、裁ち目かがり押え（C）を糸のはしにつるします。
(2) ボビンケースを軽くふって、すこしずつ押えが落ちるのを目安とします。（ボビンや糸調子ばねに指がふれないようにします）

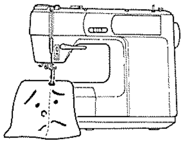
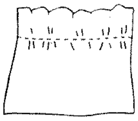
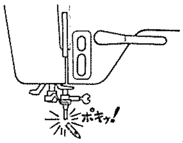
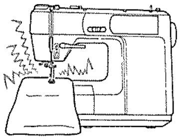
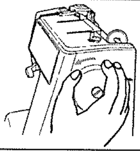
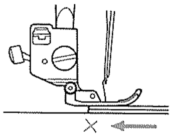
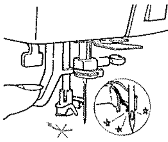


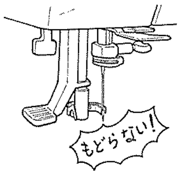
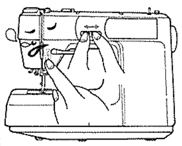


ボビンケースの糸調子ネジを右へ回すと下糸調子は強くなり、左へ回すと弱くなります。

次の様な場合は故障ではありません。サービスをお申しつけになる前にもう一度確かめてください。

	現　象	原　因　(理　由)	処　置　方　法	ページ
	●ぬっているとき急に回転しなくなった。 ※ランプはついていて、はずみ車も手で普通に回せるとき。	●ゆっくりぬいを長時間行ったとき。 ※モーターの異常発熱を防ぐため、自動的にモーター電源が消れるしくみになっています。 ●上糸がなくなっている時。(糸検知糸案内に糸が入っていないとき)	●電源スイッチを切り、しばらく(約20分間)すると安全装置が復帰し、正常に戻ります。 ●上糸をかけかえて、スタートスイッチを押します。	
	●スタートスイッチを押しても、針が動かない。 	●押え上げ、糸切りレバーが水平になっていない。 ●糸巻軸が右側になっている。 ●ボタン穴かがりのとき、レバーがさがっていない。	●押え上げ糸切りレバーを水平にします。 ●糸巻軸を左いっぱいまでもどします。 ●ボタン穴かがりレバーをさげます。	 13 13
	●スタート・ストップスイッチを押してもミシンが回らない。 (ランプはつく)	●押えのつけまちがいにより、針が押えに当っている。 ●針が外れてかまの中に落したままスタートさせたとき。 ●ボビンケースを入れ忘れてぬってしまったとき。(かまの中心の軸に糸がからんでいる) ●かまに糸がからんで喰い込んでいるとき。	●模様に合った押えにとりかえます。 ●針を取り除きます。 ●からんだ糸をハサミ等で切断し、取り除いてからボビンケースを入れます。 ●かまに注油してから、はずみ車を前後に強く数回まわし、からんだ糸をとりのぞきます。	10
	●糸が切れる。 ●ぬい目が飛ぶ。	●糸のかけ方がまちがっているとき。 ●かまの油がきれているとき。 ●糸にこぶや結び目があるとき。 ●糸調子の合わせ方が悪いとき。 ●針が曲っていたり、針先がつぶれているとき。 ●針のとりつけ方がまちがっているとき。 ●ボビンケースがかまによく差し込まれていないとき。 ●ボビンケースの糸の通し方がまちがっているとき。 ●ボビンがボビンケースの中で滑らかに回らないとき。 ●針と糸の太さが合っていないとき。 ●天びんに糸がかかっていないとき。	●糸をかける順序を調べてかけ直します。 ●かまに注油します。 ●糸こぶや結び目をとりのぞきます。 ●模様、ミシン糸の関係を調べて合わせます。 ●針をとりかえます。 ●針を正しくとりつけます。 ●ボビンケースをかまに確実に差し込みます。 ●ボビンをボビンケースに入れる方法を調べます。 ●下糸の巻き方を調べます。 ●ミシン糸、針の関係をよく調べます。 ●糸のかけ方を調べます。	8,9 44 14 14 14 7 7 6,7 14 8

	現　　象	原　因　（理　由）	処　置　方　法	ページ
	●ぬい調子が合わない。	●糸検知糸案内の中に糸が入っていないとき。 ●糸のかけ方がまちがっているとき。 ●ボビンケースの糸の通し方がまちがっているとき。 ●ボビンケースの調節がまちがっているとき。 ●かまの油がきれているとき。 ●糸ゴマキャップの大きさが糸ゴマに合っていない。	●糸検知糸案内に糸を下まできちんと押し込みます。 ●糸のかけ方を調べます。 ●ボビンをボビンケースに入れる方法を調べます。 ●ボビンケースの調整方法を調べます。 ●かまに注油します。 ●糸ゴマに合ったキャップをつけます。	8 8,9 7 44 44 7
	●ぬい目にしわができる。	●薄物に対してぬい目が大きいとき。 ●針先がつぶれているとき。	●ぬい目を小さく（みじかく）します。 ●針をとりかえます。	11 14
	●針が折れる。	●細い針で厚物をぬったとき。 ●針が奥まできちんとはいっていないとき。 ●針止めネジのしめ方が弱いとき。 ●模様に対して押えがまちがっているとき。	●布地、ミシン糸、ミシン針の関係を調べます。 ●針のとりつけ方を調べます。 ●針止めネジをしっかりしめます。 ●模様と押えの関係を調べます。	14 14 14 10
	●回転音が重い、または音が高い。	●送り歯にゴミがたまっているとき。 ●長時間使用して油がなくなったとき。 ●ミシン油でない油を使用したとき。 ●かまに糸クズがたまっているとき。	●ミシンの手入れをします。 ●ミシンの手入れをします。 ●ミシン油を使います。 ●ミシンのそうじをします。	44 44 44
	●はずみ車が重く、回らない。	●かまに糸がからんで喰い込んでいるとき。	●かまに注油してから、はずみ車を前後に強く数回まわし、からんだ糸をとりのぞきます。	
	●布を送らないとき。	●ぬい目の長さが0になっている。 ●押えの圧力が弱い。	●模様を選びなおすと模様の適正なぬい目の長さがセットされます。 ●押え調節ダイヤルを「ふつう」にします。	11 5
	●糸通しができない。 ※糸通しのフックが回転しない。 ●糸通しのフックが針穴に入らない。	●針が上にあがっていないとき。 ※針があがっていないときは、フックの保護のため回転しないしくみになっています。 ●針が奥まできちんとはいっていないとき。	●はずみ車を回して、針を上にあげます。 ●針のとりつけ方を調べます。	9 14

	現　　象	原因（理由）	処置方法	ページ
	●糸通しレバーがもどらず、ミシンが回らなくなった。 ※針穴の中に糸通しのフックが入ったまま。	●糸通しレバーをさげたまま（糸通し中）誤ってミシンを回してしまったとき。	●はずみ車を手でわずかに向う側（ぬうときと反対）に回します。	
	●スタート・ストップスイッチを押してもミシンがスタートしない。 ●ぬっている途中、ぬい速度調節レバーを動かしても、速度が変わらない。	●足踏みのコントローラーが差し込んであるとき。 ●足踏みのコントローラーが差し込んであるとき。	●コントローラーをはずせばスタート・ストップスイッチやぬい速度調節レバーが使用できます。 ●コントローラーをはずせばスタート・ストップスイッチやぬい速度調節レバーが使用できます。	41

上記で直らないときは、お買い上げ店又は弊社サービスセンターへご連絡ください。

■仕様表

項　目	仕　　様
本　体　寸　法	幅42.3×高さ32.8×奥行18.5（ｃｍ）
ケースセット寸法	幅44.5×高さ33.5×奥行20.5（ｃｍ）
重　　　　量	11kg（ケースセット時13.2kg）
定格電圧／消費電力	100Ｖ／83W 50／60Hz

修理サービスのご案内

●この家庭用ミシンのご購入者には、お買い上げ店（保証責任者）から１年間の無料修理保証書が発行されています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。
●修理サービスは無料修理期間内、および期間経過後も原則として、お買い上げ店、または弊社サービスセンターが承りますので、ご相談ください。
●修理サービスについて、ご不明な点がある場合は、同梱のジューキサービス網をご覧の上、弊社サービスセンター、支店、またはお客様相談室へお申し越しください。

修理用部品の保有期間

●交換修理に必要な動力伝達機能部品、および縫製機能部品は、通常、お買い上げの日から８年間を基準にして弊社において保有しております。
●修理部品は必要に応じて、販売店等に供給できるよう体制を整えております。

無料修理期間経過後の修理サービス

●使用説明書に基いてご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保障期間を経過していても、有料で修理いたします。ただし、次に該当する場合は有料でも修理できない場合がありますので、お買い上げ店、または弊社サービスセンターにご相談ください。

①保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
②浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
③お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
④お買い上げ店、および弊社サービスセンター以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
⑤職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
⑥保有期間を過ぎた修理用部品が必要な修理のとき。

●長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は、修理によっても元通りに修理できないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店、あるいは弊社が別に定める技術料の合計額になります。

MEMO

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、
下記のお客様相談室へお問い合わせください。

北日本お客様相談室…〒980-0012	仙台市青葉区錦町1-1-2	フリーダイヤル 0120-05-1233
東京お客様相談室…〒183-0055	東京都府中市府中町1-6-11三和第三ビル4F	
名古屋お客様相談室…〒456-0002	名古屋市熱田区金山町1-7-5住友生命第2ビル3F	
大阪お客様相談室…〒530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-6-21	
中・四国お客様相談室…〒732-0802	広島市南区大州町1-9-42	
九州お客様相談室…〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-9-5	
本社お客様相談室…〒183-0055	東京都府中市府中町1-6-11三和第三ビル5F	0120-29-2111

Copyright ©2004 JUKI CORPORATION
本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

JUKI株式会社
〒182-8655 東京都調布市国領町8-2-1
☎03-3480-5653

001004 (N)